


NTスプレー タイプS10

カタログ

【初版】

A background image showing numerous water droplets of various sizes, some in sharp focus and others blurred, creating a sense of depth and movement. The droplets are illuminated from above, creating bright highlights and soft shadows.

速く、確実に
強靱で耐久性に優れた防水塗膜が
建物を守る

超速硬化スプレー防水で、優れた塗膜防水性能を発揮

「NTスプレー タイプS10」は、環境配慮型スプレータイプの超速硬化型ウレタン塗膜防水です。専用機械施工のため、高品質な伸び・強度ともに優れた防水塗膜が、多様な形状に安定して得ることができます。

特長 1 JIS認証製品
NTスプレー タイプS10は、JIS A 6021 建築用塗膜防水材 屋根用ウレタンゴム系の「高伸長形」と「高強度形」に適合する、伸びと強度を有した強靱な防水塗膜を形成する防水材で耐久性に優れています。

特長 2 作業時間短縮
吹付け直後から硬化が始まり10分程度で歩行可能。短時間で次工程に移ることができ、工期を短縮することが可能です。早い通行が望まれる開放廊下や階段室なども使用できます。

特長 3 機械化施工で高品質
専用のスプレーマシンを管理しながら使用するため、一定条件での施工ができ、高品質で安定した防水層の形成が可能です。

特長 4 多様な形状に対応
液ダレの心配がないため斜面、平面はもちろん、垂直面、球面など複雑な形状でも均一な塗膜厚の確保が可能です。塗膜防水材の特長である継ぎ目がない、美しく信頼性の高い防水層を形成します。

特長 5 環境に配慮
NTスプレータイプS10は環境に配慮した設計の防水材です。*

- 特化則非該当
- 鉛やクロム不使用
- シックハウス13VOC不使用
- 有機則非該当
- 毒物・劇物規制外
- RoHS指令・ストックホルム条約該当物質非含有

※環境配慮仕様とする場合には、全ての工程で環境配慮タイプをお選びいただく必要があります。

グリーン購入法適合

防水材温度上昇の低減効果に優れる

右表の「高日射反射率防水」該当製品は、JIS K 5602に準じ、近赤外波長域における日射反射率が50.0%以上であるため、グリーン購入法(平成13年4月1日施行)に基づく特定調達品目に該当します。

グリーン購入法では、地方公共団体、事業者等において広範な環境保護のため、グリーン購入法適合品の調達が推進されています。遮熱塗料は特殊顔料を用いることで熱エネルギーに変換される赤外線を反射し、物体の温度上昇を抑える効果があります。

● 特定調達品目「高日射反射率防水」該当製品

製品名	色
ブルーフロンEGトップ4F遮熱 ブルーフロンGRトップ遮熱	標準色 指定遮熱色※
ブルーフロンEGトップSi	遮熱ライトグレーおよび 指定遮熱色※

※当社が指定したJIS K 5602に準じた近赤外波長域における日射反射率が50.0%以上の製品。

荷姿

●ドラム 390kgセット



硬化剤：アミン・ポリオール
182kg

主剤：イソシアネート
200kg

●石油缶 35kgセット



スプレー用トナー
8kg



硬化剤：アミン・ポリオール
16.4kg



主剤：イソシアネート
18kg



スプレー用トナー
0.6kg

●主成分・容量・荷姿

製品名	主成分	容量	荷姿
NTスプレー タイプS10 主剤	イソシアネート	200kg	ドラム
NTスプレー タイプS10 硬化剤	アミン・ポリオール	182kg	ドラム
スプレー用トナー	着色顔料	8kg	角缶
NTスプレー タイプS10 主剤	イソシアネート	18kg	石油缶
NTスプレー タイプS10 硬化剤	アミン・ポリオール	16.4kg	石油缶
スプレー用トナー	着色顔料	0.6kg	パウチ

標準色

●スプレー用トナーの色相



▲グレー U-12



▲ベージュ U-52



▲ホワイト遮熱

●印刷のため、実際の色とは相違があります。ご了承ください。

超速硬化で高品質を実現するスプレーマシンを使用。
多様化するニーズに対応します。



●施工時のスプレーマシンの設定

	NTスプレー タイプS10	NTスプレー タイプH
主剤(B液)	65℃	60℃
硬化剤(A液)	65℃	60℃
ホース	65℃	60℃
設定液圧	10MPa(100kgf/cm ²)以上	10MPa(100kgf/cm ²)以上

さまざまな用途に対応するため、 多彩な工法を用意しています。

■各種工法の概要と掲載ページ

NM 工法 ●掲載ページ=5~6
[密着工法]

一般的な密着工法で、複雑な形状にも対応できるシームレスで信頼性の高い防水工法です。

NN 工法 ●掲載ページ=7~8
[通気緩衝工法]

屋根防水に最適な、通気緩衝シートを用いた工法です。コンクリート下地からの水分に起因するフクレと、クラック発生に起因する防水層破断を防ぎ、高い防水性を発揮します。

NK 工法 ●掲載ページ=9,11,12
[機械的固定工法]

さまざまな既存下地に対して、大がかりな処理を必要としない防水が可能な工法です。また、防水層の撤去が不要なため、改修工事に伴う省力化や廃材の発生を削減できます。

NKD 工法 ●掲載ページ=10,11,12
[機械的固定・断熱・遮熱工法]

既存下地の撤去が不要なNK工法に、断熱材と高日射反射率防水工法を組み合わせた工法で、躯体の温度上昇抑制効果と防水性に優れています。

ND 工法 ●掲載ページ=13
[断熱・遮熱工法]

断熱材と高日射反射率防水工法を組み合わせた工法で、躯体の温度上昇を抑制した優れた防水工法です。

NP 工法 ●掲載ページ=14
[PCタンク工法]

PCタンクなどの傾斜角が大きな場所でも、膜厚確保可能な信頼性の高い工法です。

工法記号の見方

用途・目的に応じた性能を付与できます。また、さまざまな組み合わせが可能です。

工法記号の例：**N M - SS 20 G**

●NTスプレー全工法共通	●工法の種類	●防水層の種類	●防水材の使用量	
●NTスプレー全工法共通	M : 密着工法	SS : NTスプレー タイプS10 ※①	15 : 1.5kg/㎡	2.0kg/㎡
	N : 通気緩衝工法	D : ブルーフロンエコDX ※②	16 : 1.6kg/㎡	2.1kg/㎡
	K : 機械的固定工法	ブルーフロンエコDX NS ※②	17 : 1.7kg/㎡	2.3kg/㎡
	KD : 機械的固定・断熱・遮熱工法	VD : ブルーフロンバリュー-DX ※③	20 : 2.0kg/㎡	2.6kg/㎡
	D : 断熱・遮熱工法	ブルーフロンバリュー-DX NS ※③	25 : 2.5kg/㎡	3.3kg/㎡
	P : PCタンク工法	HG : ブルーフロンエコHG ※④	27 : 2.7kg/㎡	3.6kg/㎡
	Y : 金属屋根・防水・遮熱・防音工法	ブルーフロンエコHG NS ※④	30 : 3.0kg/㎡	3.9kg/㎡
	U : 塗り床工法	I : ブルーフロンエコONE II ※③	32 : 3.2kg/㎡	4.2kg/㎡
	F : 複層防水工法	ブルーフロンエコONE NS II ※③	35 : 3.5kg/㎡	4.6kg/㎡
	H : 保護モルタル工法		37 : 3.7kg/㎡	4.9kg/㎡
			40 : 4.0kg/㎡	5.2kg/㎡
			60 : 6.0kg/㎡	7.8kg/㎡

防水層の種類 ※① 防水層の種類 ※②

NY

工法

●掲載ページ=15~16

[金属屋根・防水・遮熱・遮音工法]

金属屋根に対して、シームレスな防水塗膜を被覆できる工法です。防水機能に加え、美観の回復とともに、防錆・遮熱・遮音効果を付与します。

NU

工法

●掲載ページ=17

[塗り床工法]

機械的物性やクラックの追従性に優れ、シームレスな仕上がりで躯体を保護します。小面積から大面積まで幅広く適用でき、超速硬化の特性を活かした短時間での開放が可能となります。

NH

工法

●掲載ページ=17

[保護モルタル工法]

浴室やトイレなど、RC構造下地の水回りに使用する保護モルタル(別途工事が必要です)工法です。屋上にも施工可能です。

NF

工法

●掲載ページ=18

[複層防水工法]

高強度の塗膜性能と、良好な伸び性能を実現した防水複層工法です。強力な下地ひび割れ追従性と歩行に耐えられる高い耐摩耗性を有しています。

官公庁仕様 JASS8仕様

●掲載ページ=19~20

各部位の納まり

●掲載ページ=21~26

脱気筒の施工

●掲載ページ=27

基本データ

●掲載ページ=28~31

製品一覧

●掲載ページ=32~35

注意事項

●掲載ページ=36~38

●トップコートの種類

2.1kg/m ²	1.8kg/m ²
2.3kg/m ²	2.0kg/m ²
2.4kg/m ²	2.1kg/m ²
2.8kg/m ²	2.4kg/m ²
3.5kg/m ²	3.0kg/m ²
3.8kg/m ²	3.3kg/m ²
4.2kg/m ²	3.6kg/m ²
4.5kg/m ²	3.9kg/m ²
4.9kg/m ²	4.2kg/m ²
5.2kg/m ²	4.5kg/m ²
5.6kg/m ²	4.8kg/m ²
8.4kg/m ²	7.2kg/m ²

防水層の種類
※③

防水層の種類
※④

F : ブルーフロンGRトップフッ素 高耐候

S : ブルーフロンGRトップ遮熱 遮熱

G : ブルーフロンGRトップ

GE : ブルーフロンGRトップエコ 環境配慮

EFS : ブルーフロンEGトップ4F遮熱 環境配慮 遮熱 高耐候

EF : ブルーフロンEGトップ4F 環境配慮 高耐候

ES : ブルーフロンEGトップSi 環境配慮 高耐候

WP : ブルーフロン水性上塗シルバー 環境配慮

PS : スーパーパラサーモシリコン 遮熱 高耐候

FT : ユータックFT

UTR : ユータックR

UTS : ユータックS

空欄 : トップコートなし

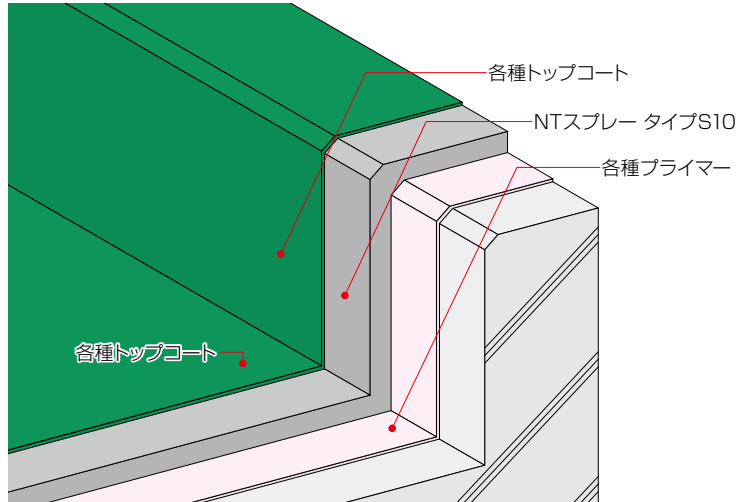
NM工法 [密着工法]

用途

- ベランダ、バルコニー
- ひさし、パラペット
- 役物の多い屋根防水
- 開放廊下
- 屋上スポーツ床など

NM工法は一般的なウレタン塗膜防水材の密着工法で、複雑な形状に簡単に対応し、シームレスな仕上がりが得られます。

●NM-SS20の施工例(屋根防水)



●特化則非該当仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③
NM-SS20	各種プライマー 0.2kg/m ²		NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NM-SS30	各種プライマー 0.2kg/m ²		NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NM-SS20 立上り	各種プライマー 0.2kg/m ²		NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²

●環境配慮・特化則非該当仕様例



工法名	工程	①	②	③
NM-SS20GE	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²		NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²
NM-SS30GE	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²		NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²
NM-SS20GE 立上り	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²		NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²





●NM-SS20の施工例(ベランダ、開放廊下)



●環境配慮・特化則非該当仕様例



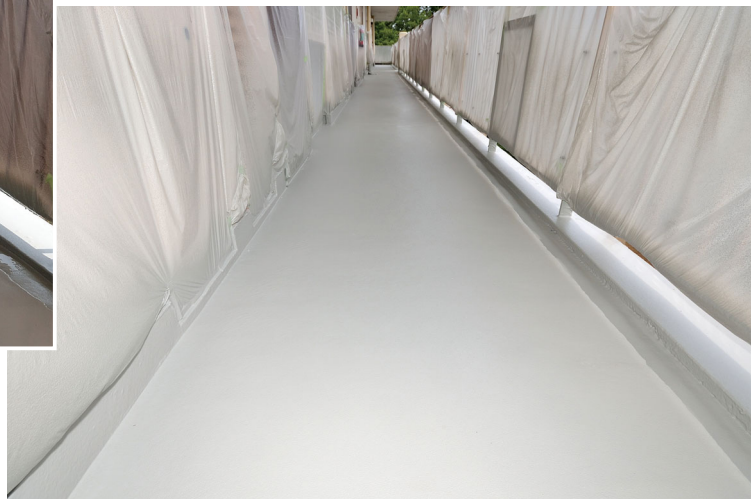
工法名	工程	①	②	③
NM-SS20		各種環境配慮型プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種環境配慮型トップコート 0.2kg/m ²

【NM工法の特記事項】

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。
- NTスプレーは、NTスプレー タイプS、NTスプレー タイプHからも選定できます。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

【NM工法の注意事項】

- 既存下地に防水層や塗り床材などがある場合は、事前に最寄りの営業所にお問い合わせください。状況に応じて、適した下地処理方法とプライマーの選定が重要となります。
- 必要に応じ、脱気装置の設置を行ってください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコート、シンナーをご使用ください。低臭仕様にする場合は、水性プライマーや水性トップコートをご使用ください(④ページをご参照ください)。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- 歩行頻度が高い場合などは、保護塗料の摩耗が発生いたします。定期的な点検と保護塗料の塗り替えを行い、防水層を長持ちさせることをおすすめいたします。
- 下地がコンクリート面で1層目に手塗りのウレタン塗膜防水を施工するNF工法をご採用いただくと、下地からのピンホールを軽減することができます。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗る場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。

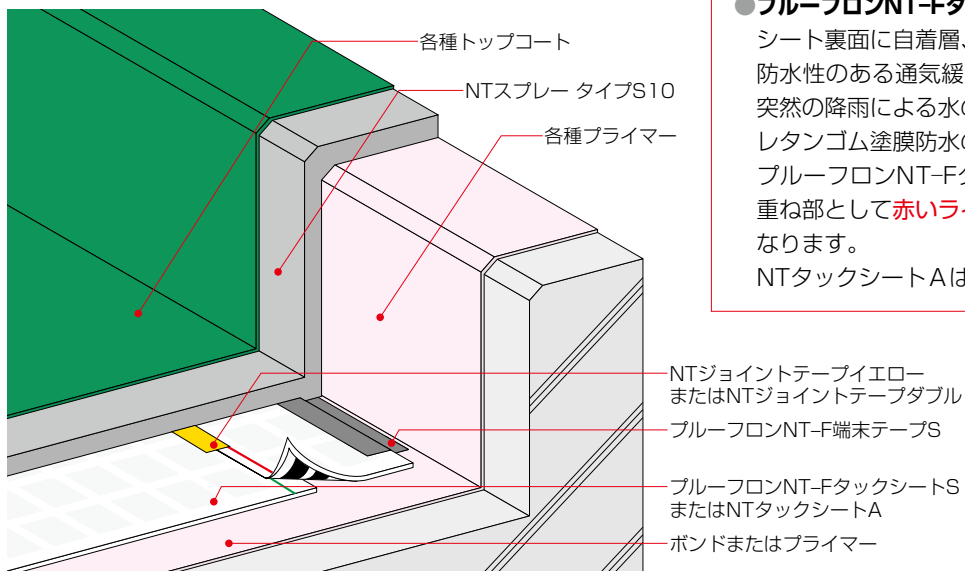


NN 工法 [通気緩衝工法]

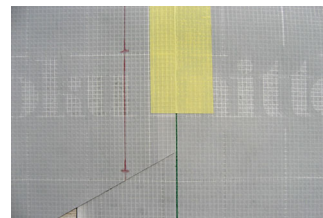
用途 ●一般屋上
●屋上スポーツ床など

NN工法は屋根防水に最適な通気緩衝シートを用いた防水工法で、長期にわたる防水性能があります。下地の動きに対応でき、下地の水分を拡散して脱気筒から放出し、防水層のフクレを抑制する工法です。

●NN-SS30の施工例(ブルーフロンNT-FタックシートS)



●ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートAの特長
シート裏面に自着層、シート表面に特殊フィルムを加工した防水性のある通気緩衝シートです。表面の特殊フィルムは、突然の降雨による水のしみ込みリスクを低減し、降雨後のウレタンゴム塗膜防水の施工性に優れています。ブルーフロンNT-FタックシートSの張り合わせは、長辺を重ね部として赤いラインが上になります。短辺は突き付けとなります。NTタックシートAは、長辺、短辺ともに突き付けとなります。



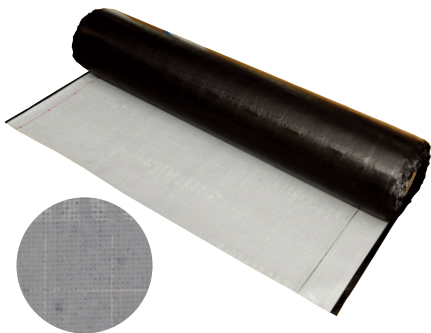
●特化則非該当仕様(屋外限定)・自着層付き通気緩衝シート仕様例



工法名	工程	①	②	③	④
NN-SS20	接着剤 (ボンドまたはプライマー)	ブルーフロンNT-FタックシートS またはNTタックシートA	NTスプレー タイプS10 2.0kg/㎡	各種トップコート 0.2kg/㎡	
NN-SS30	接着剤 (ボンドまたはプライマー)	ブルーフロンNT-FタックシートS またはNTタックシートA	NTスプレー タイプS10 3.0kg/㎡	各種トップコート 0.2kg/㎡	
NM-SS20 立上り	各種プライマー 0.2kg/㎡	NTスプレー タイプS10 2.0kg/㎡	各種トップコート 0.2kg/㎡		

●ブルーフロンNT-FタックシートS (自着層付きタイプ)

●荷姿: 厚さ1.5mm×幅1.04m×長さ15.7m/巻



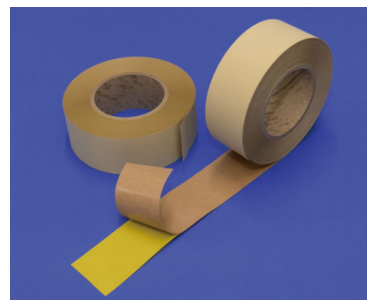
●ブルーフロンNT-F端末テープS

●荷姿: 幅75mm×長さ25m/巻
1本単位



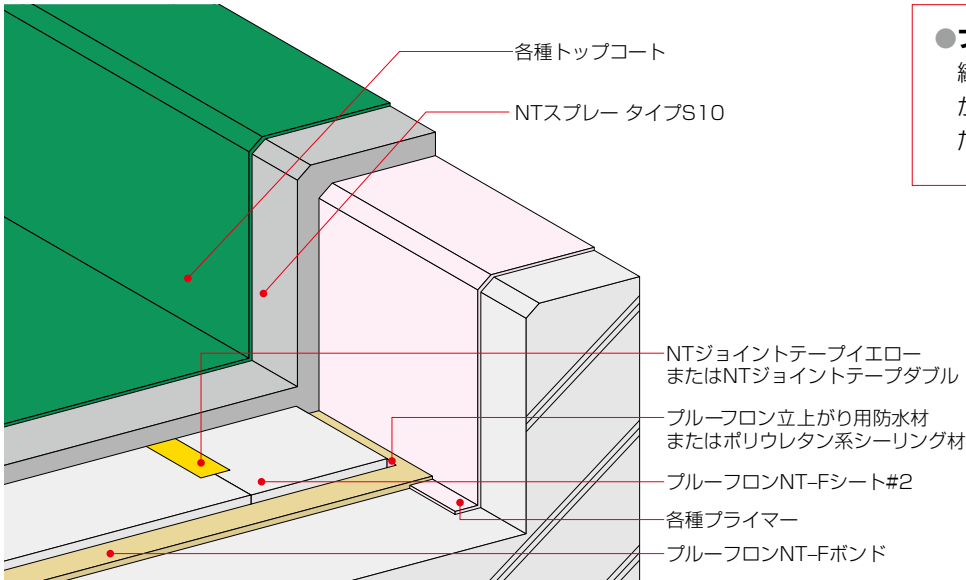
●NTジョイントテープ イエロー

●荷姿: 幅50mm×長さ50m/巻
1本単位





●NN-SS30の施工例(ブルーフロンNT-Fシート#2)



●ブルーフロンNT-Fシート#2の特長

繊維マットを主成分としているため伸びがあり、下地の動きへの対応能力に優れた通気緩衝シートです。

●特化則非該当仕様(屋外限定)・不織布張り付け通気緩衝シート仕様例



工法名	工程	①	②	③	④
NN-SS20		ブルーフロンNT-Fボンド 0.6~0.8kg/m ² (下地0.3kg, シート0.3kg)	ブルーフロンNT-Fシート#2	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NN-SS30		ブルーフロンNT-Fボンド 0.6~0.8kg/m ² (下地0.3kg, シート0.3kg)	ブルーフロンNT-Fシート#2	NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NM-SS20 立上り		各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²	

【NN工法の特記事項】

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。
- NTスプレーは、NTスプレー タイプS、NTスプレー タイプHからも選定できます。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

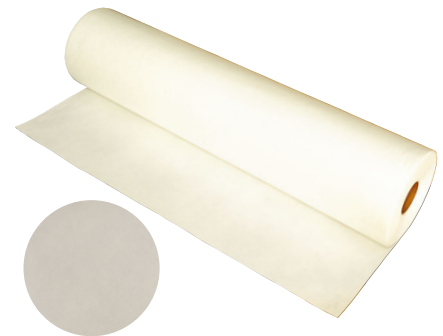
【NN工法の注意事項】

- ブルーフロンNT-Fシート#2を張り付ける際に降雨にあいまいと、シートに水分を含むこととなります。必ずシート貼り付け後ウレタン塗膜防水材を施工し、雨仕舞いを行ったうえで作業を終了してください。また、ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートAについても、シート端部の雨仕舞いを行ってください。
- 隣り合うシートは短手のジョイントの位置を揃えないようにずらして施工を行ってください。
- 通気緩衝シートは、浮きやシワがなく、また、シート間の隙間が大きくなるように施工してください。
- ブルーフロンNT-FタックシートSやNTタックシートAは張り付け後、浮かないようにするために転圧ローラーにて十分に転圧してください。
- ブルーフロンNT-FタックシートSやNTタックシートAは、張り付け後、次工程までの施工間隔が長くあいた場合、紫外線によりシート表層のコーティング接着層が劣化する場合があります。
- 必要に応じ、脱気装置の設置を行ってください。
- 自着層付きタイプのシートをご採用いただいた場合、自着層の模様が浮き出る場合がありますが防水性能に問題はございません。あらかじめご了承ください。**
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- 下地がコンクリート面で1層目に手塗りのウレタン塗膜防水を施工するNF工法をご採用いただくと、下地からのピンホールを軽減することができます。
- シート張り付け後、接着剤の硬化時間を十分に設けてください。接着剤の硬化不十分の場合、防水層施工後にシートの浮きが発生します。**
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコート、シンナーをご使用ください。低臭仕様にする場合は、水性プライマーや水性トップコート、水性ボンドをご使用ください(④ページをご参照ください)。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。

●ブルーフロンNT-Fシート#2

(不織布張り付けタイプ)

- 荷姿：厚さ1.4mm×幅1.0m×長さ25m/巻



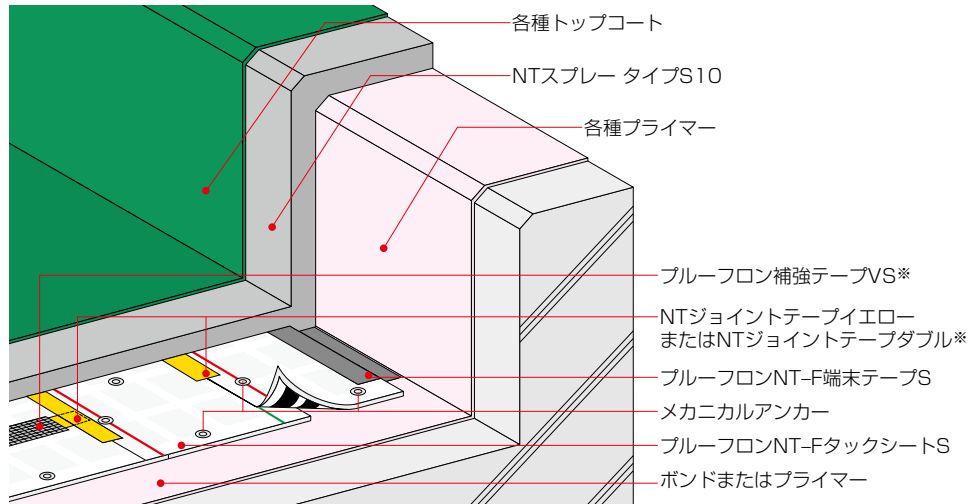
NK工法 [機械的固定工法]

●プライマーやトップコートあるいは接着剤は、下記以外もご使用いただけます。一覧表より状況に応じたプライマーを選択ください。一覧表は右のQRコードからのリンクもしくはホームページをご確認ください。



NK工法は、既存のさまざまな既存下地でも大がかりな処理を必要とせずに施工できるため、下地処理の省力化や廃材の削減ができることが最大の特長です。

●NK-SS30の施工例



※NTジョイントテープダブルを使用する場合は、ブルーフロン補強テープVSは省略できます。

●図の関係上、メカニカルアンカーの数は省略しています。

用途

●一般屋上など

●特化則非該当仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④	⑤
NK-SS20		※下地状況によりボンドまたはプライマーまたは下地処理材もしくは不要	ブルーフロンNT-FタックシートS	メカニカルアンカー	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NK-SS30		※下地状況によりボンドまたはプライマーまたは下地処理材もしくは不要	ブルーフロンNT-FタックシートS	メカニカルアンカー	NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NM-SS20 立上り		各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²		

[NK工法の特記事項]

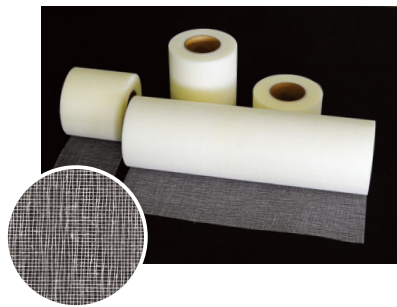
- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。
- NTスプレーは、NTスプレー タイプS、NTスプレー タイプHからも選定できます。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

[NK工法の注意事項]

- ブルーフロンNT-FタックシートSの長辺の重ね部は赤いラインが上となります。短辺は突き付けとなります。
- 必要に応じ、脱気装置の設置を行ってください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコート、シンナーをご使用ください。低臭仕様にする場合は、水性プライマーや水性トップコートをご使用ください(9ページをご参照ください)。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- 下地の状況やALC下地の場合など、現地で測定したメカニカルアンカーの引き抜き強度が充分でない場合は別途、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 下地がコンクリート面で1層目に手塗りのウレタン塗膜防水を施工するNF工法をご採用いただくと、下地からのピンホールを軽減することができます。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。
- 自着層の模様が浮き出る場合がありますが防水性能に問題はありませぬ。あらかじめご了承ください。

●ブルーフロン補強テープVS (粘着剤付き)

- 荷姿：幅10cm×長さ50m/巻
幅14cm×長さ50m/巻
幅20cm×長さ50m/巻
幅30cm×長さ50m/巻
幅50cm×長さ50m/巻



●メカニカルアンカー40、70、100

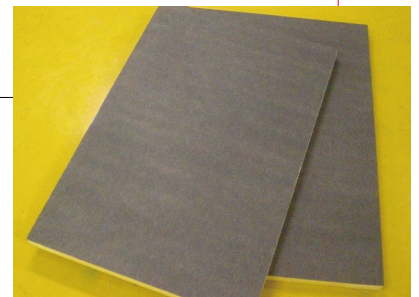
- 荷姿：つば30mm×長さ40mm、70mm、100mm 500本/箱

※100mmは受注生産品です。



●ブルーフロン硬質断熱材(硬質断熱材)

- 荷姿：
 - 25mm厚 厚さ25×幅605×長さ910mm 20枚梱包
 - 30mm厚 厚さ30×幅605×長さ910mm 17枚梱包
 - 35mm厚 厚さ35×幅605×長さ910mm 14枚梱包
 - 50mm厚 厚さ50×幅605×長さ910mm 10枚梱包
- ※40mm厚も準備可能ですが、最低発注枚数は約600枚になります。条件がございますので、最寄りの営業所までお問い合わせください。



NKD

工法[機械的固定・断熱・遮熱工法]

●プライマーやトップコートあるいは接着剤は、下記以外もご使用いただけます。一覧表より状況に応じたプライマーを選択ください。一覧表は右のQRコードからのリンクもしくはホームページをご確認ください。

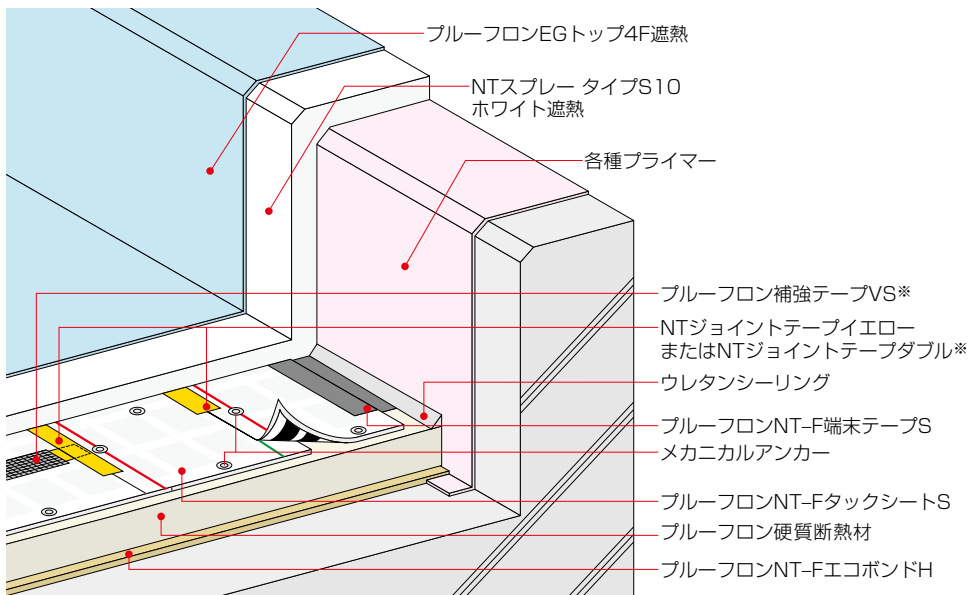


NKD工法は「ブルーフロンNT-FタックシートS」を「メカニカルアンカー」で下地に固定する機械的固定工法と断熱材を組み合わせ、さらに遮熱性を付与した工法です。

用途

- 一般屋上など

●NKD-SS30EFSの施工例



※NTジョイントテープダブルを使用する場合は、ブルーフロン補強テープVSは省略できます。

●図の関係上、メカニカルアンカーの数は省略しています。

●特化則非該当・環境配慮高耐候仕様例



工法名	工程	①	②	③	④	⑤	⑥
NKD-SS30EFS		ブルーフロンNT-FエコボンドH 0.3kg/m ²	ブルーフロン硬質断熱材	ブルーフロンNT-FタックシートS	メカニカルアンカー	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 3.0kg/m ²	ブルーフロンEGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回
NM-SS20EFS 立上り		各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 2.0kg/m ²	ブルーフロンEGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回			

[NKD工法の特記事項]

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。ただし、平場は使用量3.0kg/m²以上となります。
- 断熱工法は断熱材の蓄熱を考慮し、遮熱トップコートをご使用ください。
- NTスプレーは、NTスプレー タイプS、NTスプレー タイプHからも選定できます。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

[NKD工法の注意事項]

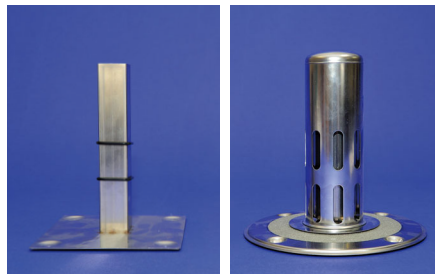
- ブルーフロンNT-FタックシートSの長辺の重ね部は赤いラインが上となります。短辺は突き付けとなります。
- 下地の状況やALC下地の場合など、現地で測定したメカニカルアンカーの引き抜き強度が充分でない場合は別途、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 必要に応じ、脱気装置の設置を行ってください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコート、シンナーをご使用ください。低臭仕様にする場合は、水性プライマーや水性トップコートをご使用ください(9ページをご参照ください)。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。
- 下地がコンクリート面で1層目に手塗りのウレタン塗膜防水を施工するNF工法をご採用いただくと、下地からのピンホールを軽減することができます。
- 自着層の模様が浮き出ることがありますが防水性能に問題はありません。あらかじめご了承ください。
- 寒暖差が大きい時期は、断熱材の影響により、表面が結露しやすいため、トップコートの施工時間帯を考慮し、必要に応じて専用硬化促進剤をご使用ください。

●ステンレス脱気筒(丸型)

●ステンレス断熱用コア

- 脱気筒 2個入り(別売) :
プラグレスアンカー(径4mm×35mm) 8本
補強クロス1枚

●断熱用コア 2個入り(別売)

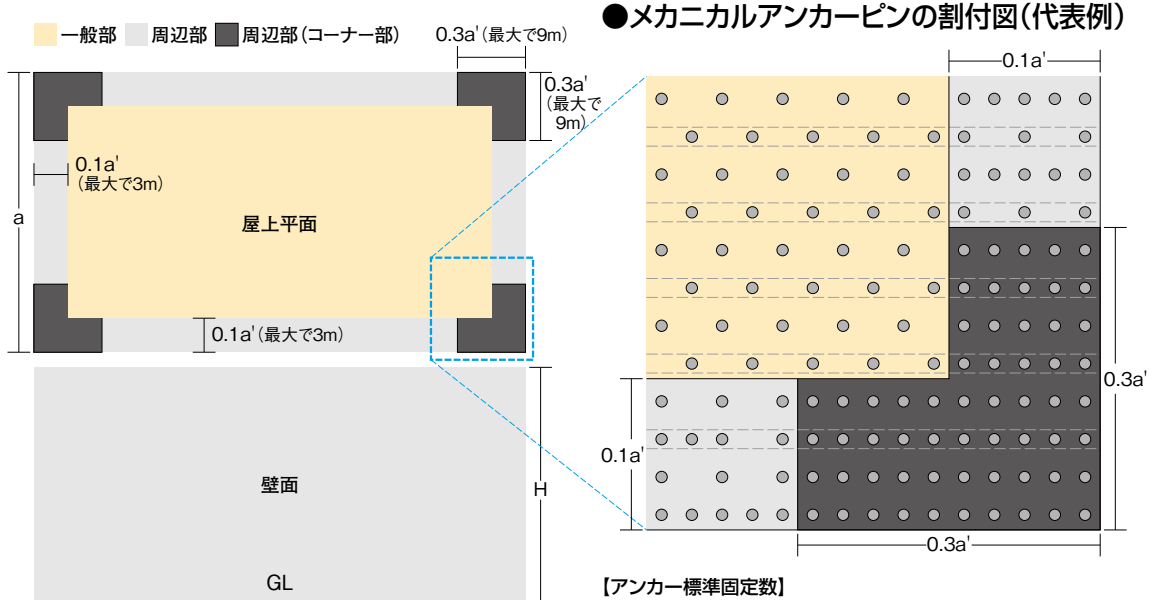


NTスプレーNK/NKD工法耐風圧性について (標準アンカーピン固定数と割付)

NTスプレーNK/NKD工法は機械的固定ですので強風により、防水層が飛ばされないようにするために適切な割付によるアンカーピンの固定が必要です。

●屋根面にかかる風圧力

屋上で風が吹いたときには、防水層を上へ引き上げる力が働きます。その力は屋根面の部位により、強さが異なります。力の強さは一般部<周辺部<コーナー部の順に風圧が強くなります。したがって、部位によって必要なメカニカルアンカーピンの割付数が異なります。



H : 建築物の高さと軒の高さの平均(m)

a' : 平面の短辺長さ(a)とHの2倍の数値のうち、いずれか小さい数値 (ただし、30mを超える場合は、30mとする)

●メカニカルアンカーピンの割付図(代表例)

【アンカー標準固定数】

●一般部 : 2個/㎡ ●周辺部 : 3個/㎡ ●コーナー部 : 4個/㎡

基準風速の強い地域や海岸沿い、高層の建物など、強風にさらされる建物では風圧力が増加するため、標準固定数では十分な安全率が確保できない場合がありますので、最寄りの営業所へご相談ください。

●NTスプレーNK/NKD工法の耐風圧性

NTスプレーNK/NKD工法は耐風圧計算に基づき、最適な割付数量を設定しています。

■耐風圧性の計算

建築基準法(第87条)、建築基準法施行令(第82条の4、5)、告示(平12建告第1458号)、告示(令2国告第1437号・平12建告第1454号)に基づき、下記設定条件において耐風圧性能の計算を行います。

●設定条件

耐風圧性を計算する際の標準的なモデルを設定します。

- 建物の高さ(H) : 30m
- 勾配 : 1 / 100
- 建物の短辺方向の長さ(a) : 50m
- 地表面粗度区分 : Ⅲ (標準的な地域が該当)

●風圧力の計算方法

屋根にかかる風圧力は平成12年建設省告示1458号に定める計算式により求められます。

$$W = q \times C_f \quad W: \text{風圧力(N/㎡)} \quad q: \text{平均速度圧(N/㎡)} \quad C_f: \text{ピーク風圧係数}$$

平均速度圧は次式で求められます。

$$q = 0.6 \times E_r^2 \times V_o^2 \quad E_r = \text{平均速度の高さ方向の分布を表す係数} \quad V_o = \text{基準風速}$$

基準風速は、全国の市町村単位で細かく分類し、その土地で吹く風の基準として30~46mの8段階に分類されています。代表例として、基準風速38m/sを用いて風圧力を計算します。

●風圧力の計算結果

	固定力 N/㎡(A)
一般部	-2,118
周辺部	-2,710
コーナー部	-3,642

●メカニカルアンカー引き抜き強度

	モルタル
埋め込み深さ(mm)	30
強度(N/本)	2,450N

※標準モルタル下地となります。

●NTスプレーNK/NKD工法の安全率

	風圧力の計算結果 固定力 N/㎡(A)	下地モルタル面		風速38m/sの場合の 安全率B÷A×100
		アンカー本数/㎡	固定力 N/㎡(B)	
一般部	-2,118	2本	4,900N	231%
周辺部	-2,710	3本	7,350N	271%
コーナー部	-3,642	4本	9,800N	269%

■NTスプレーNK/NKD工法の安全率

※必要な耐風圧力は一般的に対象建物の風圧力に対し、2倍の安全率をみています。

※施工面(屋上)は、一般部、周辺部、コーナー部に分類されます。それぞれの係数に応じて、㎡当たりの使用固定金具数の計算が必要となります。

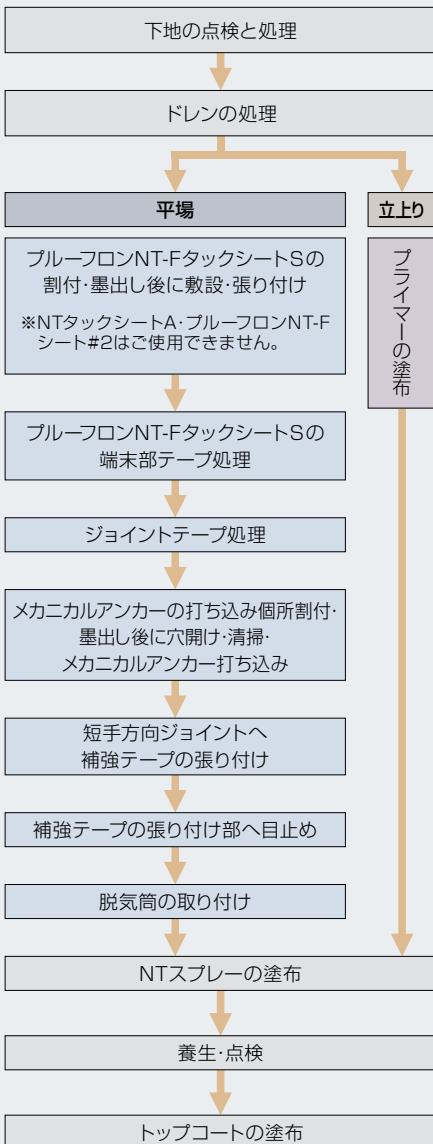
お問い合わせの際は「下地種類」「地方の区分」「地表面粗度区分」「建築物の高さ、幅」「現場下地のアンカー引き抜き強度」などの情報をご用意ください。

●地表面粗度区分

- I : 海上のようなほとんど障害物の無い平坦地。
(例) 海岸地帯、海上
- II : 田園地帯や草原のような農作物程度の障害物がある平坦地。
(例) 田園地帯、沿岸地帯、飛行場
- III : 樹木・低層建築物が密集、もしくは中層建築物が散在する地域。
(例) 森林地帯、工場地帯、都市周辺の住宅地
- IV : 中・高層建築物が主となる市街地。
(例) 中高層市街地、中小都市

※令2国告第1437号により、地表面粗度区分について変更となっており、都市計画区域内外に関わらず、特定行政庁が規則で地表面粗度区分I、II及びIVの区域を定めることが可能となりました。建築物の設計時の構造計算における風圧力の値が変更になりますので、確認を行ってください。

● 施工チャート (NK工法)



■ブルーフロンNT-FタックシートSのジョイント処理方法

- ①短辺、長辺方向ともにNTジョイントテープイエローもしくはNTジョイントテープダブルを張り付けます。
- ②所定の位置にメカニカルアンカーを打ち込みます。
- ③短辺方向のみNTジョイントテープイエローの上にブルーフロン補強テープVSを張り付けます(2枚張り)。NTジョイントテープダブル使用時は2枚張りは省略できます。
- ④短辺:ウレタン塗膜防水材立上り用の塗り付け、またはNTスプレアを増し吹きします。長辺:NTスプレアを増し吹きします。

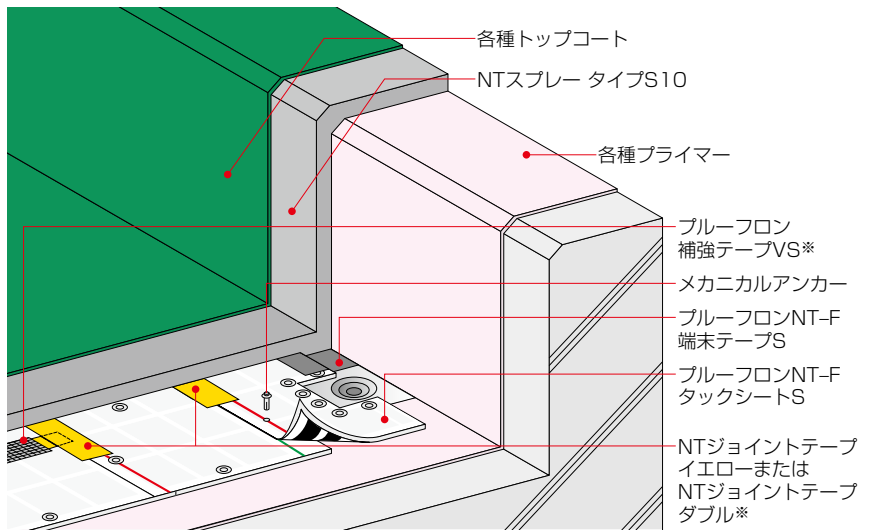
■ブルーフロンNT-FタックシートSの端末処理方法

- 末端になる部分はブルーフロンNT-F端末テープSをメカニカルアンカー、または押さえ金物に被るように張り付けしてください。

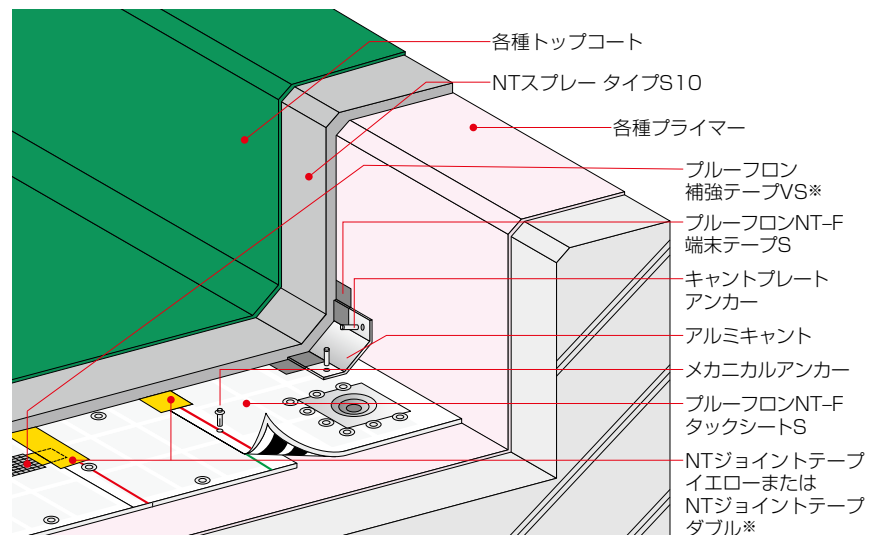
■メカニカルアンカー座金処理方法

- メカニカルアンカー座金部分で補強テープが被らない座金露出部分は、ウレタン塗膜防水材+液状ダレ止め剤、またはウレタン塗膜防水材立上り用、またはウレタンシーリング材を塗布してください。もしくはNTスプレアの増し吹きを行ってください。

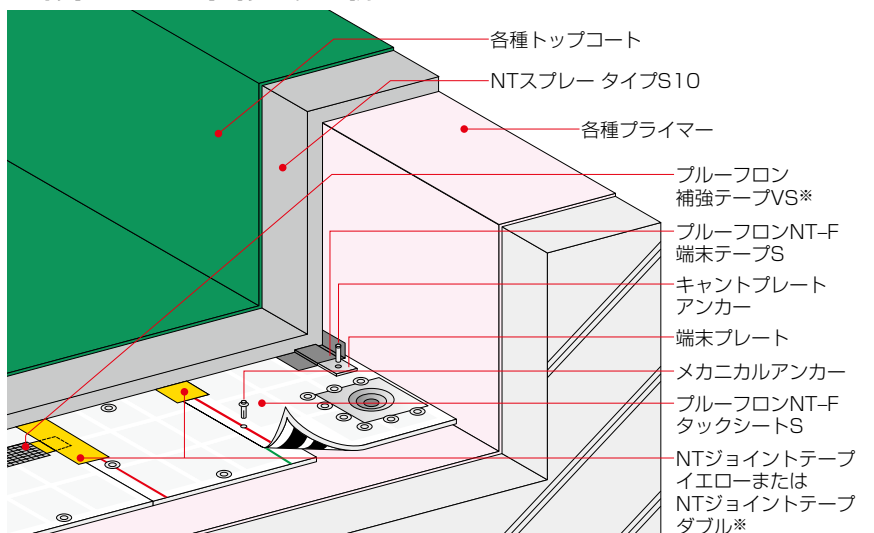
●標準仕様の施工例



●アルミキャスト仕様の施工例



●端末プレート仕様の施工例



- 納まり図は一般的な例です。すべての施工において適用できるものではありません。
- 図の関係上、メカニカルアンカーの数は省略しています。

※NTジョイントテープダブルを使用する場合は、ブルーフロン補強テープVSは省略できます。

ND

工法[断熱・遮熱工法]

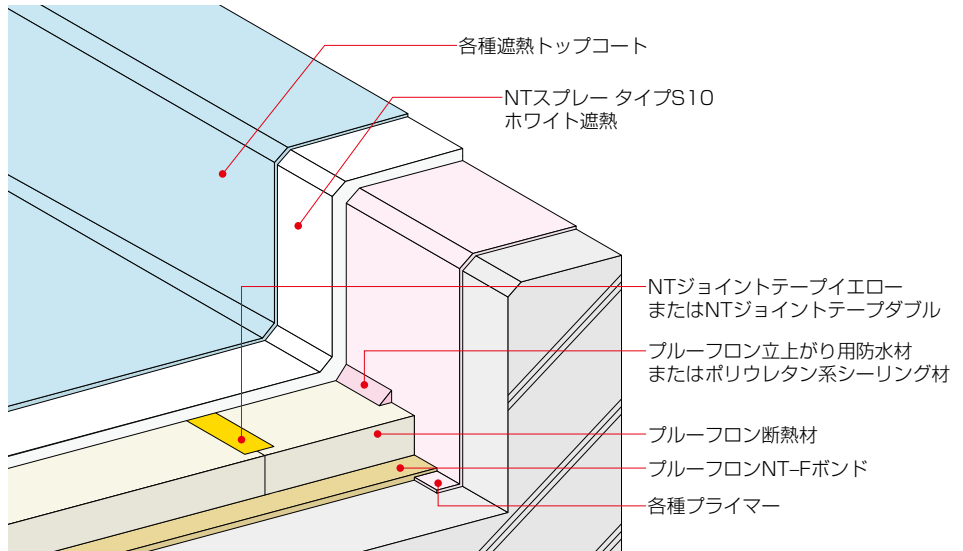
●プライマーやトップコートあるいは接着剤は、下記以外もご使用いただけます。一覧表より状況に応じたプライマーを選択ください。一覧表は右のQRコードからのリンクもしくはホームページをご確認ください。



ND工法は屋上からの熱を遮断することにより、室内への熱の侵入を防ぎ、建物の躯体の劣化を抑制する断熱材を用いた工法です。トップコートに遮熱仕様を用いることで、さらなる遮熱効果を発揮します。

用途 ●一般屋上など

●ND-SS30の施工例



●特化則非該当・高耐候仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④
ND-SS30EFS		ブルーフロンNT-Fボンド 下地：0.3kg/m ² 断熱材：0.3kg/m ²	ブルーフロン断熱材	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 3.0kg/m ²	ブルーフロンEGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回
NM-SS20EFS 立上り		各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 2.0kg/m ²	ブルーフロンEGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回	

[ND工法の特記事項]

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。ただし、平場は使用量3.0kg/m²以上となります。
- 断熱工法は断熱材の蓄熱を考慮し、遮熱トップコートをご使用ください。
- NTスプレーは、NTスプレー タイプS、NTスプレー タイプHからも選定できます。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

[ND工法の注意事項]

- ブルーフロン断熱材を張り付ける際に降雨にあいませと、水分を含むこととなります。必ず断熱材を張り付け後、ウレタン塗膜防水材を施工し、雨仕舞いを行ったうえで作業を終了してください。
- 脱気装置の設置を行ってください。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- ステンレス脱気筒は、断熱材の厚みにより専用コアが必要となる場合があります(詳細は最寄りの営業所へお問い合わせください)。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。
- 寒暖差が大きい時期は、断熱材の影響により、表面が結露しやすいため、トップコートの施工時間帯を考慮し、必要に応じて専用硬化促進剤をご使用ください。

ハイクッション工法

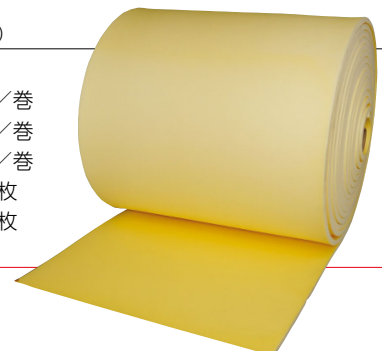
床に高いクッション性を付与するNTスプレー タイプS10ハイクッション工法です。幼稚園、保育園、高齢者向け福祉施設などで、転倒事故によるケガの抑制対策としてご使用いただけます。



●ブルーフロン断熱材(軟質断熱材)

●荷姿：

- 厚さ10mm×幅1m×長さ50m/巻
- 厚さ15mm×幅1m×長さ50m/巻
- 厚さ20mm×幅1m×長さ25m/巻
- 厚さ25mm×幅1m×長さ2m/枚
- 厚さ30mm×幅1m×長さ2m/枚



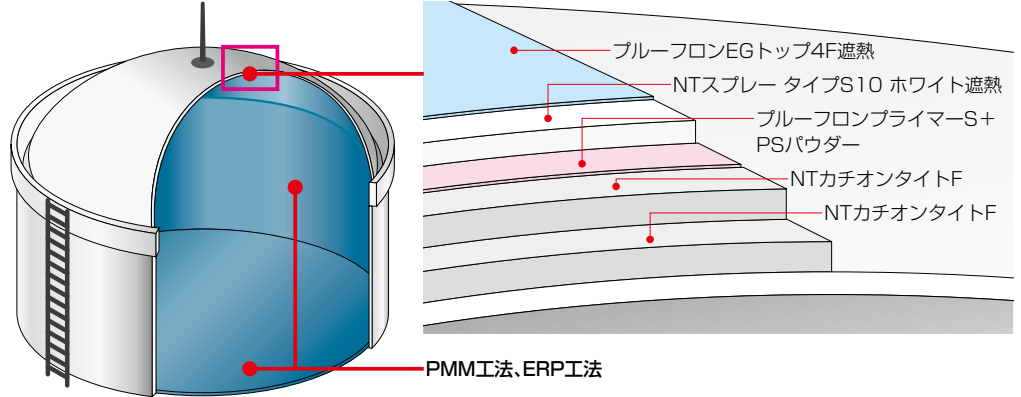
NP 工法 [PCタンク工法]

●プライマーやトップコートあるいは接着剤は、下記以外もご使用いただけます。一覧表より状況に応じたプライマーを選択ください。一覧表は右のQRコードからのリンクもしくはホームページをご確認ください。



NP工法はPCタンクなどの防水に最適な工法で、傾斜角の大きな場所においても膜厚確保ができる信頼性の高い速硬化防水工法です。

●NP-SS30EFSの施工例



用途 ●PCタンク

●特化則非該当・高耐候仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④	⑤
NP-SS20EFS		NTカチオンタイトF 2.0kg/m ²	NTカチオンタイトF 2.0kg/m ²	ブルーフロンプライマーS (PSパウダー1:1)混入 0.3kg/m ²	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 2.0kg/m ²	ブルーフロン EGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回
NP-SS30EFS		NTカチオンタイトF 2.0kg/m ²	NTカチオンタイトF 2.0kg/m ²	ブルーフロンプライマーS (PSパウダー1:1)混入 0.3kg/m ²	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 3.0kg/m ²	ブルーフロン EGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回

●特化則非該当仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④	⑤
NP-SS20		NTカチオンタイトF 2.0kg/m ²	NTカチオンタイトF 2.0kg/m ²	ブルーフロンプライマーS (PSパウダー1:1)混入 0.3kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²

【NP工法の特記事項】

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。
- 他のプライマーやトップコートもご使用いただけます。
- NTスプレーは、NTスプレー タイプS、NTスプレー タイプHからも選定できます。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

【NP工法の注意事項】

- 既存下地に防水層などがある場合は、事前に最寄りの営業所にお問い合わせください。状況に応じて、適した下地処理方法とプライマーの選定が重要となります。
- NTスプレーの色相は、表面温度低減および隠ぺい性確保のため、遮熱ホワイトをおすすめします。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコート、シンナーをご使用ください。低臭仕様にする場合は、水性プライマーや水性トップコートをご使用ください(④ページをご参照ください)。

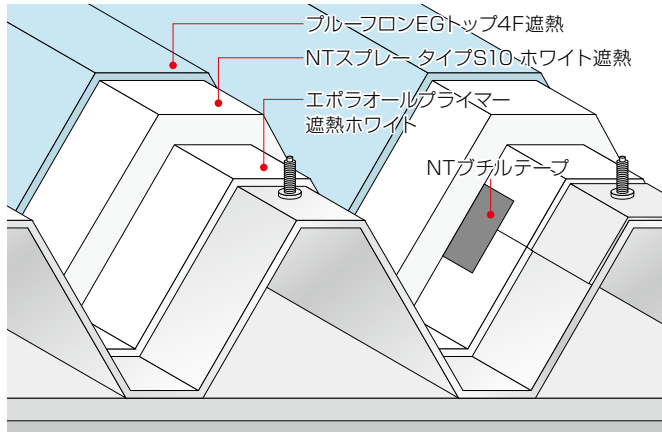
NY 工法 [金属屋根・防水・遮熱・遮音工法]

NY工法は金属屋根の防水を可能にした速硬化防水工法で、勾配のある屋根においても膜厚確保ができる優れた防水工法です。さらに防錆、遮熱、遮音効果にも優れた性能を発揮します。

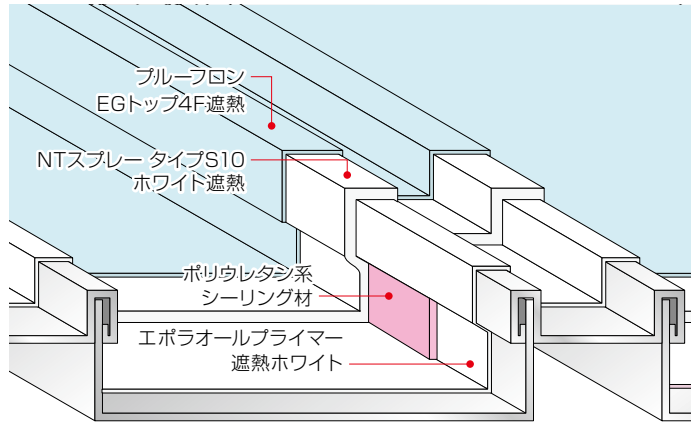
用途

●各種金属屋根

●NY-SS16EFSの施工例



●NY-SS30EFSの施工例



●消音・制振比較(社内試験)

試験項目	無処理鋼板 (1mm厚)	NTスプレー NY工法	削減効果	規格または条件
雨音シャワー試験(dBA)	58	46	12	シャワー流量 0.75ℓ/分 1in鋼板×250mm
衝撃音響試験(dBA)	84.3	66.5	17.8	
残響時間(秒)	5	1.7	3.3	

測定機器：騒音計 B&K社 Dual Channel Real-time Frequency Analyzer(Type2133)

●音響測定値の目安

※音の数値が約3dBA低くなると、エネルギーは半減したことになります。

騒音値	騒音の例
100dBA	電車が通るときのガード下などの音量
80dBA	地下鉄・電車などの車内の音量
60dBA	普通の会話・静かな乗用車内の音量
50dBA	静かな事務所内の音量
40dBA	図書館・静かな住宅地の昼帯・市内など深夜帯の音量
30dBA	郊外の深夜帯・ささやき声程度の音量
20dBA	木の葉のふれあう音・置き時計の秒針音(前方1m)の音量

●特化則非該当・高耐候仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④
NY-SS16EFS		エポラオールプライマー 遮熱ホワイト 0.13~0.16kg/m ²	金属のカシメ部(ジョイント部)は、NTプチルテープまたはポリウレタン系シーリング材にて処理を行ってください	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 1.6kg/m ²	ブルーフロンEGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回
NY-SS30EFS		エポラオールプライマー 遮熱ホワイト 0.13~0.16kg/m ²	金属のカシメ部(ジョイント部)は、NTプチルテープまたはポリウレタン系シーリング材にて処理を行ってください	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 3.0kg/m ²	ブルーフロンEGトップ4F遮熱 0.15kg/m ² ×2回

●特化則非該当仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④
NY-SS20		エポラオールプライマー 0.13~0.16kg/m ²	金属のカシメ部(ジョイント部)は、NTプチルテープまたはポリウレタン系シーリング材にて処理を行ってください	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²



●屋根用高日射反射率塗料(2液弱溶剤シリコン樹脂塗料) JIS K 5675 2種1級 屋根用高日射反射率塗料認証品 認証番号:JP0314002

スーパーパラサーモシリコン

NY工法では、屋根用高日射反射率塗料のJIS(JIS K 5675 2種1級)を取得している「スーパーパラサーモシリコン」を使用することができ、高品質なトップコート仕上げが可能です。

「スーパーパラサーモシリコン」は、太陽光からの近赤外線を強力に反射し、屋根の温度上昇を低減する高日射反射率塗料(遮熱塗料)です。優れた遮熱性能で省エネに貢献します。

遮熱性能試験

●比較試験板内容

■基材：鋼板

■試験塗装板内容

●試験板①：工法名NY-SS30G

下塗り：エポラオールプライマー

防水材：NTスプレータイプS(3.0kg/㎡)

トップコート：ブルーフロンGRトップ
(色相:シルバーグレー)

●試験板②：工法名NY-SS30PS

下塗り：エポラオールプライマー

防水材：NTスプレータイプS(3.0kg/㎡)

トップコート：スーパーパラサーモシリコン
(色相:エコソフトグレー)

■試験条件

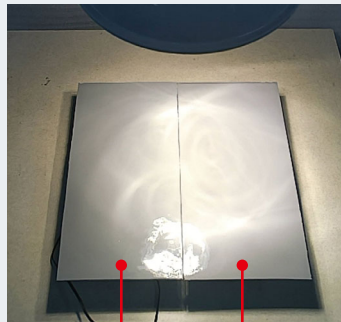
●ランプ照射距離：23cm

●ランプの種類：アイR形赤外線電球
(IR100/110V500WRH)

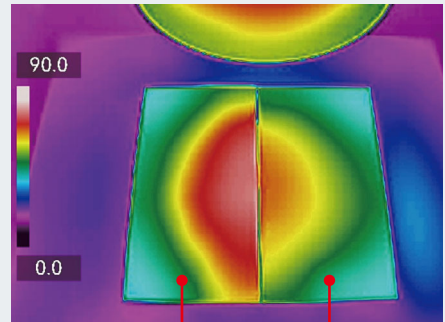
●測定時室温：20℃

試験室内試験にてブルーフロンGRトップとスーパーパラサーモシリコンをそれぞれ上記塗装内容にて施工した試験板に赤外線ランプを照射し表面温度と試験板裏面温度を測定しました。表面温度で約20℃、裏面温度で約16℃~17℃の差が生じていることがわかります(試験結果は試験室などの条件により変化します。これらの試験は、遮熱効果を確認する試験であり実現場での表面・裏面遮熱効果を保証するものではありません)。

●サーモグラフィーによる表面温度比較

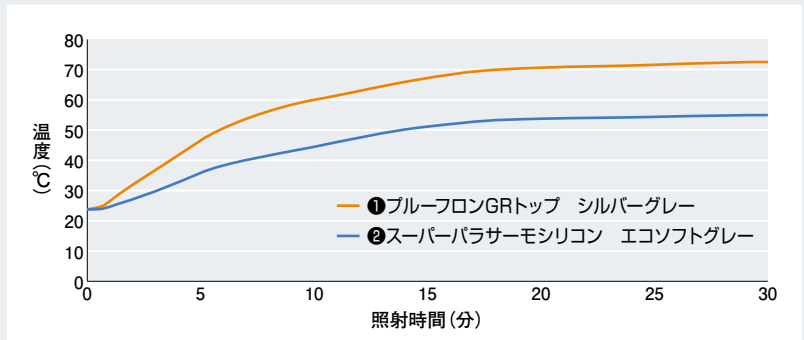


試験板① 試験板②



試験板① 試験板②

●試験板裏面温度測定(赤外線ランプ照射試験)



●特化則非該当仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④	⑤
NY-SS20PS	エポラオールプライマー	エポラオールプライマー 0.13~0.16kg/㎡	金属のカシメ部(ジョイント部)は、NTプチルテープまたはポリウレタン系シーリング材にて処理を行ってください	NTスプレー タイプS10 ホワイト遮熱 2.0kg/㎡	スーパーパラサーモシリコン 0.15kg/㎡	スーパーパラサーモシリコン 0.15kg/㎡

【NY工法の特記事項】

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。
- 他のトップコートもご使用いただけます。
- NTスプレーは、NTスプレー タイプS、NTスプレー タイプHからも選定できます。
- フックボルト部は、NTスプレーを施工後、ボルトキャップにウレタン系シーリング材を充填し取り付けを行ってください。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

【NY工法の注意事項】

- フッ素鋼板の場合は、メーカーや経年劣化状況により付着性が異なるため、必ず施工前に付着性試験を行ってください。
- NTスプレーの色相は、表面温度低減および隠ぺい性確保のため、遮熱ホワイトをおすすめします。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコート、シンナーをご使用ください(④ページをご参照ください)。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。

※「スーパーパラサーモシリコン」の色相につきましては、専用色見本帳をご参照ください。

※「スーパーパラサーモシリコン」は、JIS K 5675を取得していますが、建築用塗膜防水材JIS A 6021のトップコート用のJISではないことをあらかじめご了承ください。

NU工法 [塗り床工法]

●プライマーやトップコートあるいは接着剤は、下記以外もご使用いただけます。一覧表より状況に応じたプライマーを選択ください。一覧表は右のQRコードからのリンクもしくはホームページをご確認ください。

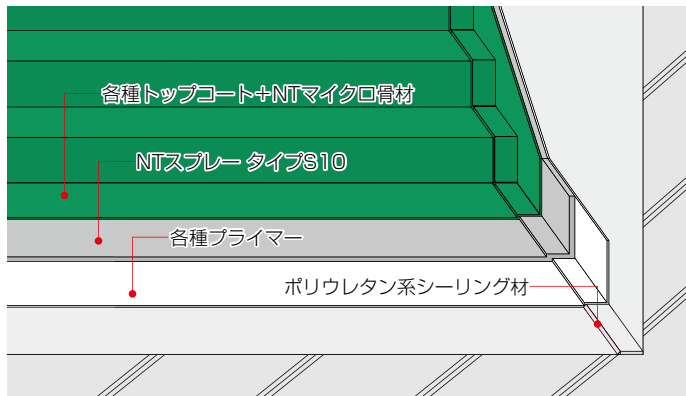


用途

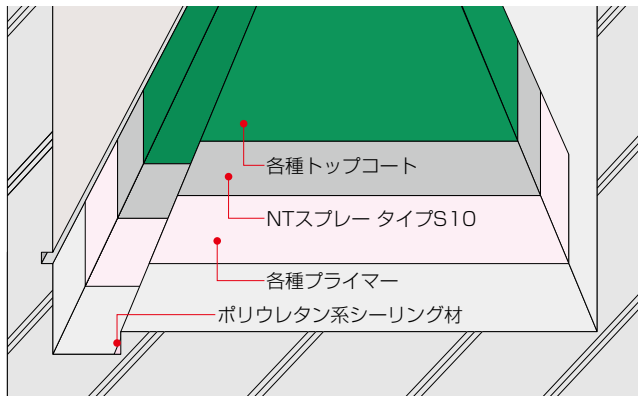
- コンコース
- 廊下・内部階段
- クリーンルーム
- 工場床

NU工法は超速硬化の特性を生かし、施工完了後、短期間での使用が可能となります。

●NU-SS16工法 屋内階段への施工例



●NU-SS20工法 屋内廊下への施工例



●環境配慮特化則非該当仕様例



工法名	工程	①	②	③
NU-SS16WG	1	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²	NTスプレータイプS10 1.6kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²
	2			
	3			

●特化則非該当・防滑仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③
NU-SS20FT	1	各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレータイプS10 2.0kg/m ²	ユータックFT+エストップ#20 0.2kg/m ²
	2			
	3			

[NU工法の特記事項]

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。
- 他のプライマーやトップコートもご使用いただけます。
- NTスプレーは、NTスプレータイプS、NTスプレータイプHからも選定できます。

- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

[NU工法の注意事項]

- 既存下地に防水層や塗り床材などがある場合は、事前に最寄りの営業所にお問い合わせください。状況に応じて、適した下地処理方法とプライマーの選定が重要となります。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコート、シンナーをご使用ください(④ページをご参照ください)。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- 下地は、コンクリート金コテ仕上げを想定しています。機械押さえ処理を行った緻密コンクリートや強化コンクリートなどは、別途下地処理が必要です。
- コンクリート表層のレイトランスは、適切な下地処理が別途必要となります。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。せん断応力がかかりやすい条件で使用される場合(駐車場、競技場など)は24時間以内できればNTスプレー施工と同日にトップコートを施工してください。

NH工法 [保護モルタル工法]

●プライマーやトップコートあるいは接着剤は、下記以外もご使用いただけます。一覧表より状況に応じたプライマーを選択ください。一覧表は右のQRコードからのリンクもしくはホームページをご確認ください。



NH工法は、浴室やトイレなど、RC構造下地の水回りに使用する保護モルタル(別途工事が必要です)工法です。屋上にも施工可能です。

●特化則非該当仕様(屋外限定)例



工法名	工程	①	②	③	④
NH-SS30G	1	各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレータイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²	※ポリエチレンシート(0.15~0.2mm)および保護モルタルは別途工事となります。
	2				
	3				
	4				

用途

- 浴室、トイレ
- 一般屋上など

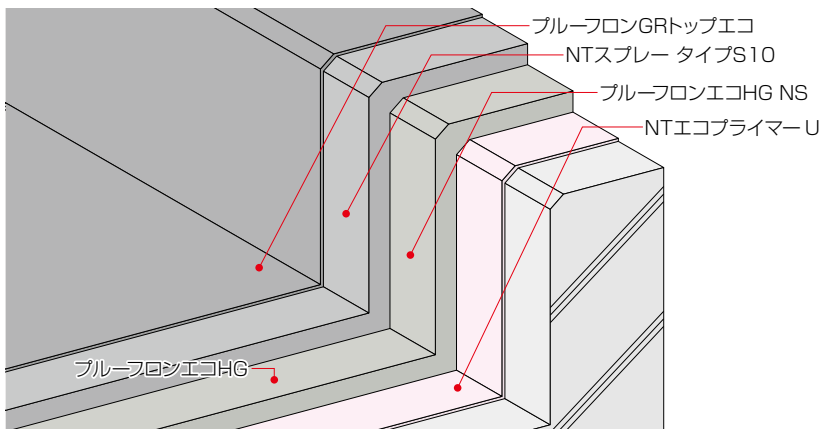
NF 工法 [複層防水工法]

●プライマーやトップコートあるいは接着剤は、下記以外もご使用いただけます。一覧表より状況に応じたプライマーを選択ください。一覧表は右のQRコードからのリンクもしくはホームページをご確認ください。



NF工法は、高い塗膜性能と良好な伸び性能を実現した防水性能をさらに高めた工法です。高伸長ウレタンと高強度ウレタンの複層工法であるため、高い下地ひび割れ追従性と歩行に耐えられる高い耐摩耗性を有しています。

●NF-HGSS30GEの施工例



用途 ●一般屋上など

●一般仕様例

工法名	工程 ①	②	③	④
NF-VDSS30	プライマー各種 0.2kg/m ²	ブルーフロンバリュー-DX 1.4kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NF-VDSS20 立上り	プライマー各種 0.2kg/m ²	ブルーフロンバリュー-DX NS 0.7kg/m ²	NTスプレー タイプS10 1.5kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
NF-SSSH35EFS	プライマー各種 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 1.5kg/m ²	NTスプレー タイプH 2.0kg/m ²	ブルーフロンEGトップ4F遮熱 0.2kg/m ²

●環境配慮・特化則非該当仕様例



工法名	工程 ①	②	③	④
NF-ISS30GE	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²	ブルーフロンエコONEII 1.4kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²
NF-ISS25GE 立上り	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²	ブルーフロンエコONE NSII 0.8kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²

●環境配慮・特化則非該当仕様例



工法名	工程 ①	②	③	④
NF-HGSS30GE	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG 1.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²
NF-HGSS25GE 立上り	NTエコプライマーU 0.2kg/m ²	ブルーフロンエコHG NS 0.6kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	ブルーフロンGRトップエコ 0.2kg/m ²

【NF工法の特記事項】

- 各工法の使用量は、上記以外にも変更可能です。
- NTスプレーは、NTスプレータイプS、NTスプレータイプHからも選定できます。
- 施工例については、一般的な納まり施工例となります。その他の納まりについてはお問い合わせください。

【NF工法の注意事項】

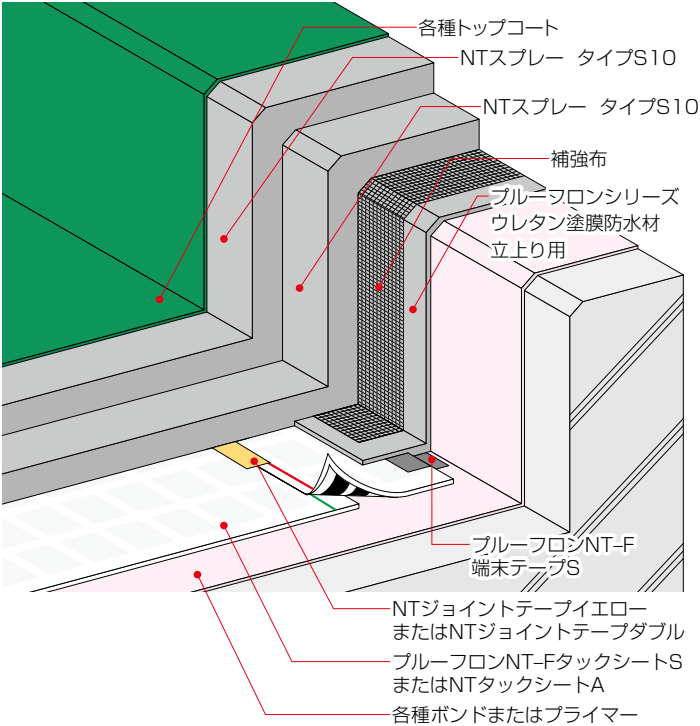
- 既存下地に防水層や塗り床材などがある場合は、事前に最寄りの営業所にお問い合わせください。状況に応じて、適した下地処理方法とプライマーの選定が重要となります。
- 必要に応じ、脱気装置の設置を行ってください。
- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、特化則対応・環境配慮品のプライマー、トップコート、シンナーをご使用ください。低臭仕様にする場合は、水性プライマーや水性トップコートをご使用ください(④ページをご参照ください)。
- 作業手順は、施工仕様書をご参照ください。
- 遮熱タイプ、特注色、淡彩色のトップコートを選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- ブルーフロンEGトップ4F遮熱を2回塗りする場合は、1層目はブルーフロンEGトップ4F遮熱の代わりにブルーフロンGRトップ遮熱を使用できます。
- トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。

官公庁仕様

公共建築工事標準仕様書[令和7年度版]

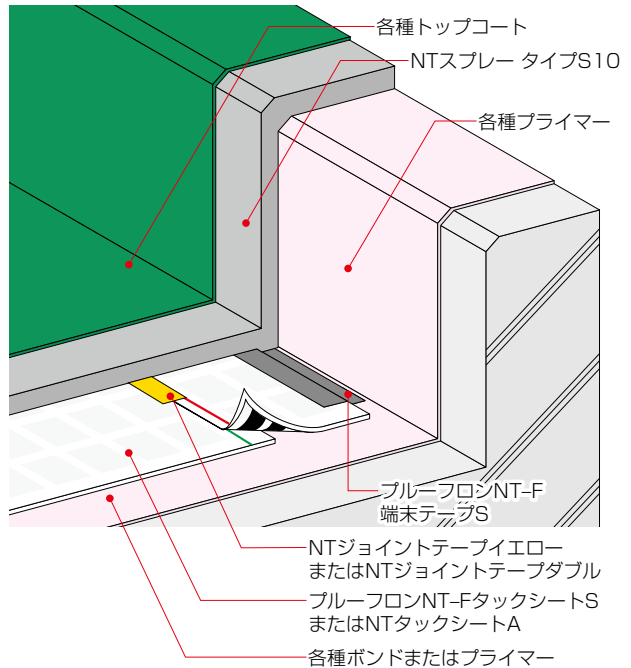
公共建築改修工事標準仕様書[令和7年度版]

●公共建築工事標準仕様書X-1、X-2立上り相当仕様例



●建築工事管理指針に基づく公共建築工事書標準仕様X-1、X-2相当仕様例

●公共建築改修工事標準仕様書X-1H、X-2H立上り仕様例



●公共建築工事標準仕様(X-1、X-2相当仕様)

工法名	工程	①	②	③	④	⑤	⑥
X-1S		接着剤 (ボンドまたはプライマー)	通気緩衝シート	NTスプレー タイプS10 1.5kg/m ²	NTスプレー タイプS10 1.5kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²	
X-2SC		各種プライマー 0.2kg/m ²	ブルーフロンシリーズ ウレタン塗膜防水材 平場用各種*	補強布	NTスプレー タイプS10 1.5kg/m ²	NTスプレー タイプS10 1.2kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
X-2SC 立上り	ブルーフロンシリーズ ウレタン塗膜防水材 立上り用各種*		NTスプレー タイプS10 0.9kg/m ²		NTスプレー タイプS10 0.8kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²	

*ブルーフロンエコDX、ブルーフロンエコDX NSを使用する場合は0.4kg/m²となります。ブルーフロンバリューDXおよびブルーフロンバリューDX NS、ブルーフロンエコONEⅡおよびブルーフロンエコONE NSⅡを使用する場合は0.5kg/m²となります。

●建築工事管理指針に基づく「公共建築工事標準仕様」(X-1相当)

工法名	工程	①	②	③	④
X-1SS		接着剤 (ボンドまたは プライマー)	通気緩衝シート	NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²

●建築工事管理指針に基づく「公共建築工事標準仕様」(X-2相当)

工法名	工程	①	②	③
X-2SS		プライマー各種 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
X-2SS 立上り	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²			

●公共建築改修工事標準仕様書(X-1H、X-2H)

工法名	工程	①	②	③	④
X-1H		接着剤(ボンドまたはプライマー) 0.3kg/m ²	通気緩衝シート	NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
X-2H		各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²	
X-2H (立上り)		各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²	

【公共建築工事仕様の注意事項】

- 特化則非該当・環境配慮仕様にする場合は、NTスプレー タイプS10やブルーフロンシリーズウレタンゴム塗膜防水材を使用し、特化則対応・環境配慮品のプライマー、ボンド、トップコートをご使用ください。低臭仕様にする場合は、水性プライマーや水性トップコート、水性ボンドなどをご使用ください。
- 接着用ボンドと通気緩衝シートの組み合わせは④ページの適合表をご参照ください。
- X-1工法には、脱気装置の設置を行ってください。
- 各通気緩衝シートのジョイント、端末処理方法については④～⑦ページをご参照ください。
- 公共建築工事においては、「ブルーフロンシリーズ総合カタログ」④①～④④ページ、公共建築工事標準仕様書、公共建築改修工事標準仕様書、建築工事監理指針、建築改修工事監理指針もご参照ください。

■公共建築改修工事標準仕様書[令和7年版]より

●ウレタンゴム系高強度形塗膜防水の種別及び工程

種別	X-1H(絶縁工法)		X-2H(密着工法)	
工程	材料・工法	使用量(kg/m ²)	材料・工法	使用量(kg/m ²)
①	接着剤塗り 通気緩衝シート張り ※1	0.3	プライマー塗り	— ※7
②	ウレタンゴム系高強度形防水材吹付け ※5	3.0 ※3	ウレタンゴム系高強度形防水材吹付け ※5	3.0 ※3 (2.0) ※4
③	仕上塗料塗り ※6	—	仕上塗料塗り ※6	—

※1：接着剤以外による通気緩衝シートの張付け方法は、主材料の製造所の仕様による。

※2：L4X工法で既存防水層の表面に層間接着用プライマーを塗布した場合は、工程1を省略する。

※3：表中のウレタンゴム系防水材の使用量は、硬化物比重が1.0である材料の場合を示しており、硬化物比重がこれ以外の場合は、所定の塗膜厚を確保するように使用量を換算する。

※4：立上り部は全て、種別X-2Hとし、工程2のウレタンゴム系防水材の塗布量を()内とする。

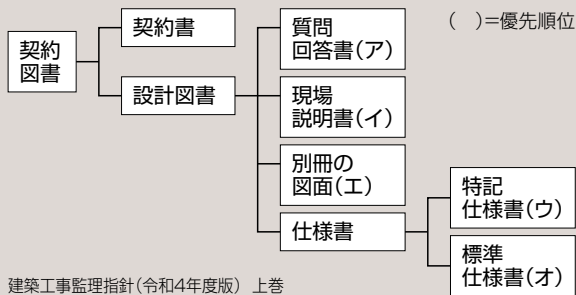
※5：吹付け作業が困難な部位の工法は、主材料の製造所の仕様による。

※6：仕上塗料の種類及び使用量は、特記による。特記がなければ、使用量は主材料の製造所の仕様による。

※7：使用量は主材料の製造所の仕様による。

塗膜防水「標仕」以外の工法として、X-2の補強布を省略する提案について

公共建築工事標準仕様書(建築工事編)令和7年度版には、設計図書間の優先順位を定めています(1.1.1一般事項)。発注者及び監督職員と協議の上、承認を得た場合は、補強布張りを省略することができます。



建築工事監理指針(令和4年度版) 上巻
23ページ 図1.1.1 工事請負契約における図書より抜粋

建築工事監理指針(令和7年度版)上巻878ページ

9章 防水工事 8節「標仕」以外の工法

9.8.3 塗膜防水「標仕」以外の工法

(1)超速硬化ウレタンゴム系塗膜防水材(一部抜粋)

(イ)(a)硬化時間が短いため平場・立上り部とも同一材で施工できる。

(ウ)この工法のうち、JIS A 6021に規定するウレタンゴム系高強度形を用いたものについては、実績も多く、次のような特徴がある(図9.8.1及び図9.8.2参照)。

(a)密着工法では、補強布を使用しない。

(b)所定量のウレタン防水材を、一工程で吹き付ける。

「JASS 8 防水工事」のウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・密着仕様(L-UFH)、ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・絶縁仕様(L-USH)及び国土交通省大臣官房営繕部制定「公共建築改修工事標準仕様書(建築工事編)令和7年版」のウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・絶縁工法(X-1H)、ウレタンゴム系高強度形塗膜防水工法・密着工法(X-2H)を参考にするとよい。

JASS8仕様

日本建築学会 建築工事標準仕様書JASS8[2022年版]

●日本建築学会JASS8防水工事仕様

工法名	工程	①	②	③
L-UFH 平場	各種プライマー 0.2kg/m ²		NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²
L-UFH 立上り			NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	

工法名	工程	①	②	③	④
L-USH 平場	接着剤 (ボンドまたはプライマー)	通気緩衝シート	NTスプレー タイプS10 3.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²	
L-USH 立上り	各種プライマー 0.2kg/m ²	NTスプレー タイプS10 2.0kg/m ²	各種トップコート 0.2kg/m ²		

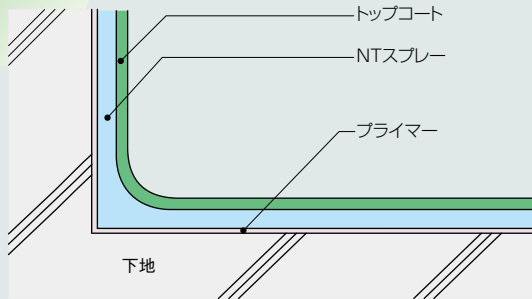
※類似仕様について

公的仕様	通気緩衝工法	密着工法	立上り
公共建築工事標準仕様書	X-1	X-2	X-2
公共建築改修工事標準仕様書	POX	L4X	L4X
日本建築学会JASS8防水工事	L-USS	L-UFS	L-UFH, L-USH

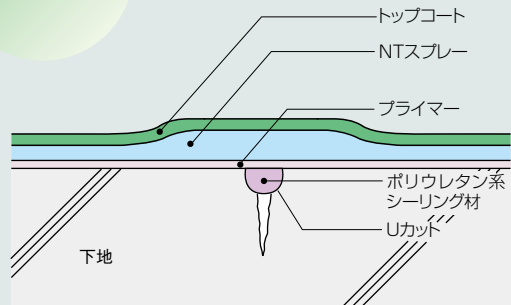
確実な防水効果のために。

■各部位の納まり①

入隅

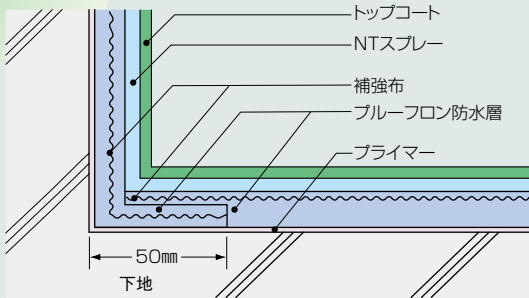


平場の中小クラック・立上りのクラック



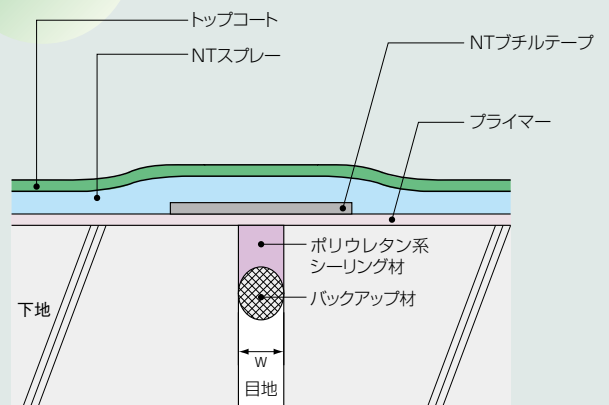
入隅

※平場X-2SC工法とX-2SC立上り工法の取り合い



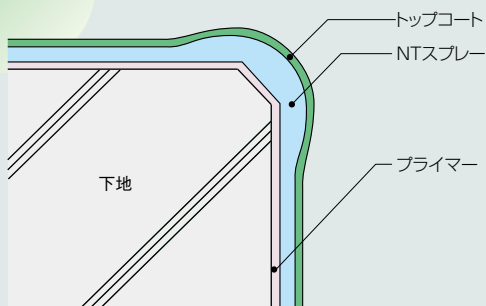
PC板

NM工法[密着工法]

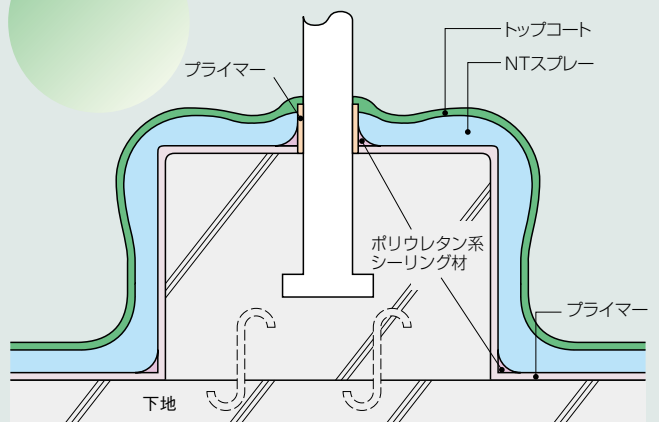


出隅

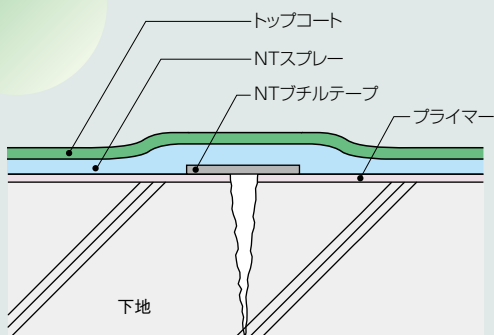
※出隅部は面取りを行ってください。



架台

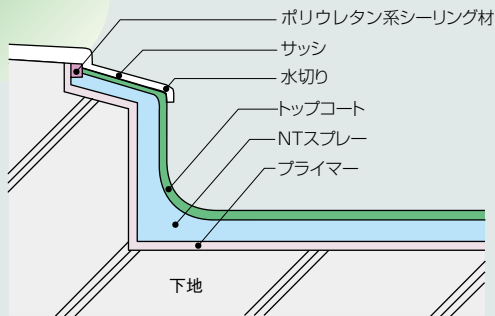


平場の大クラック



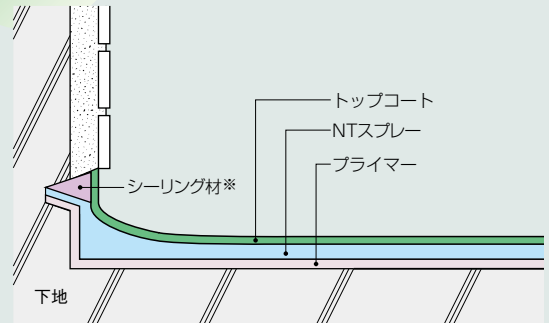
※各部位の納まり図は一般的な例です。すべての施工において適用できるものではありません。

壁立上り① (開口部)



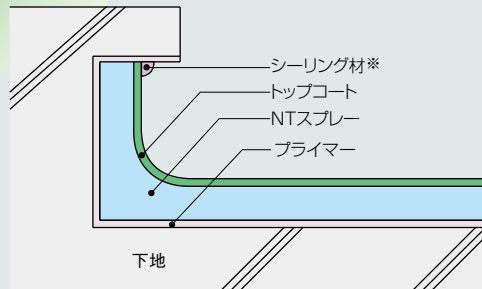
磁器タイル壁面補修納まり例

※磁器タイルを数枚剥がし防水材を立上げてください。
 ※VカットまたはUカット後にポリウレタン系シーリングで処理してください。



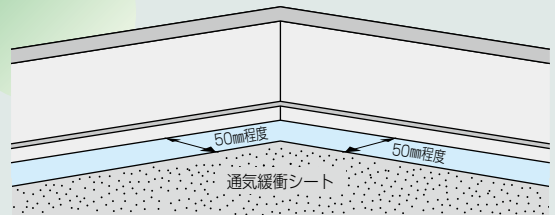
※被覆：ポリウレタン系シーリング材（トップコート被覆処理）
 露出：変性シリコン系シーリング材

壁立上り②

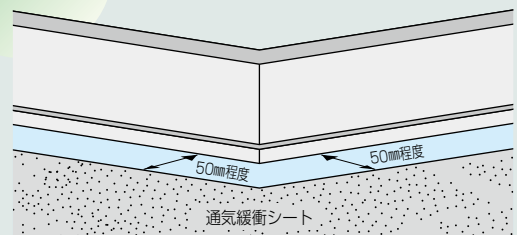


※被覆：ポリウレタン系シーリング材（トップコート被覆処理）
 露出：変性シリコン系シーリング材

入隅

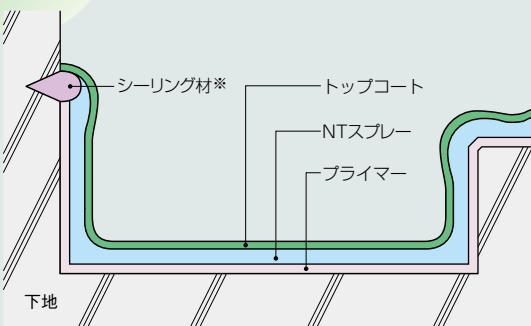


出隅



底部補修納まり例

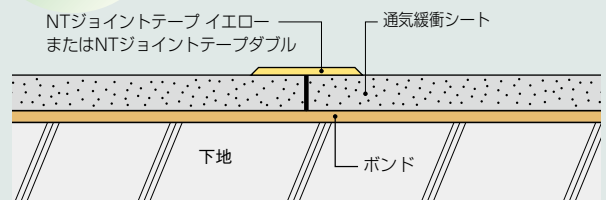
※壁面は笠木より高く立上げてください。
 ※VカットまたはUカット後にポリウレタン系シーリングで処理してください。



※被覆：ポリウレタン系シーリング材（トップコート被覆処理）
 露出：変性シリコン系シーリング材

シート間の接続

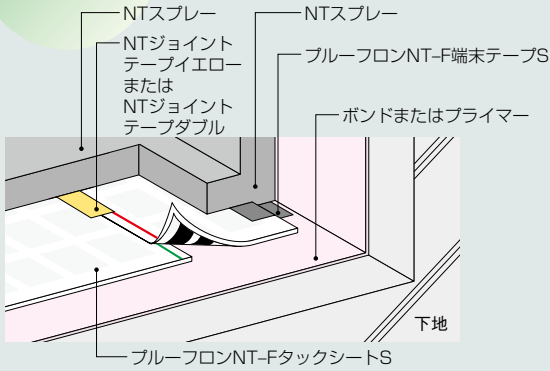
●使用シート：ブルーフロンNT-Fシート#2



■各部位の納まり②

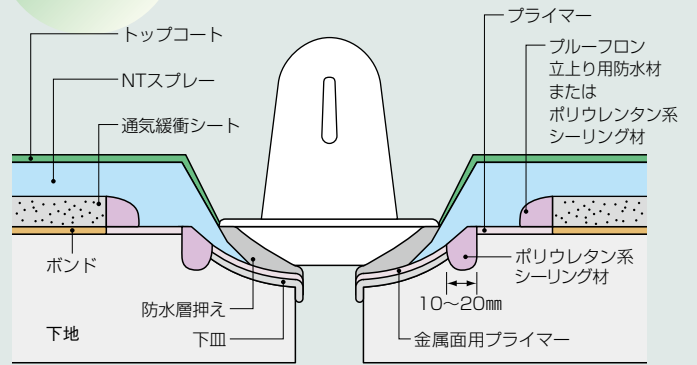
シート間の接続

●使用シート：ブルーフロンNT-FタックシートS



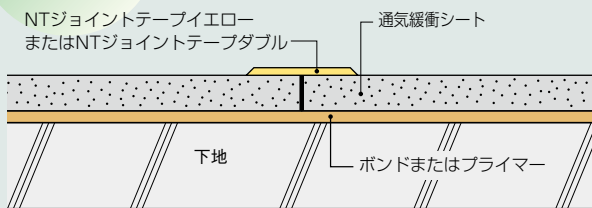
ドレンまわり(タテ引きドレン)

●使用シート：ブルーフロンNT-Fシート#2



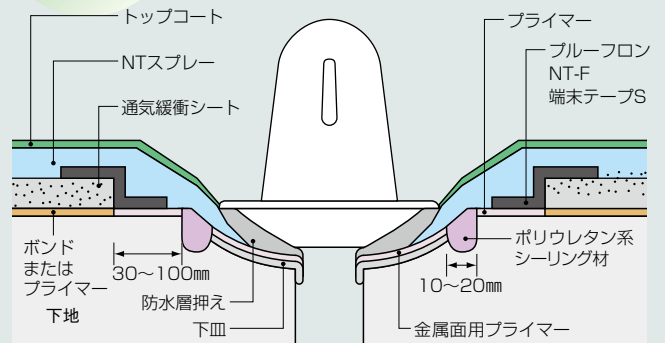
シート間の接続

●使用シート：NTタックシートA

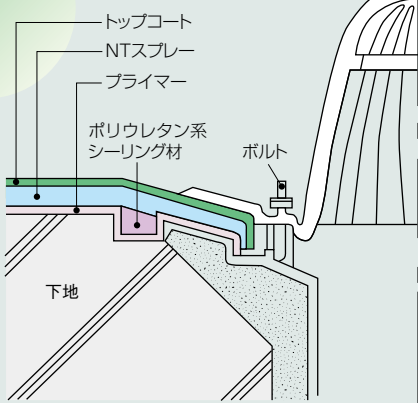


ドレンまわり(タテ引きドレン)

●使用シート：ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートA

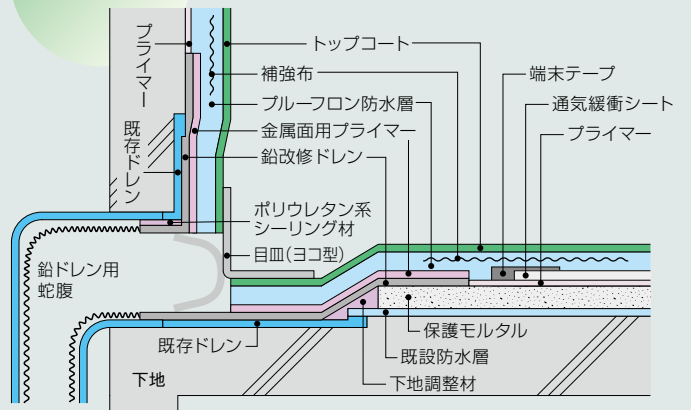


ドレンまわり



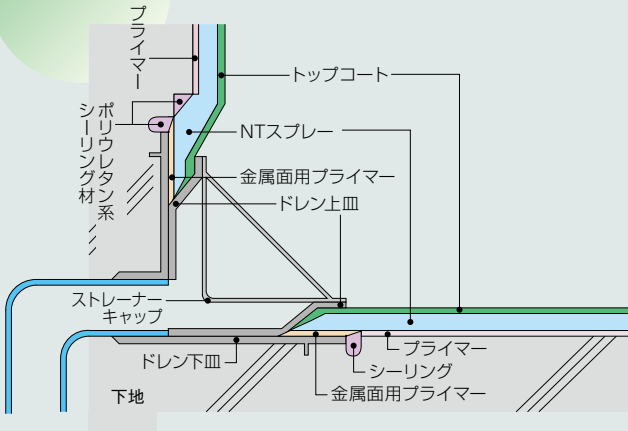
ドレンまわり(鉛改修ドレン:ヨコ引き)

立上りアスファルト撤去



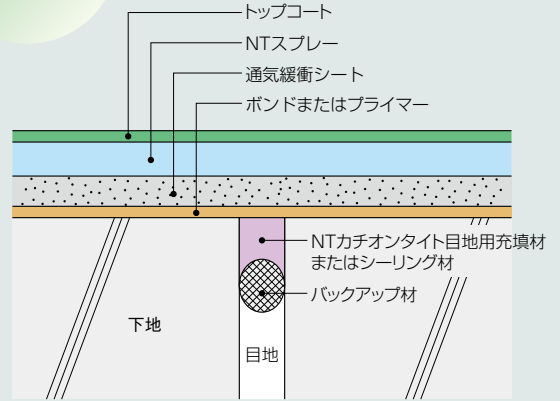
※各部位の納まり図は一般的な例です。すべての施工において適用できるものではありません。

ドレンまわり(ヨコ引きドレン)



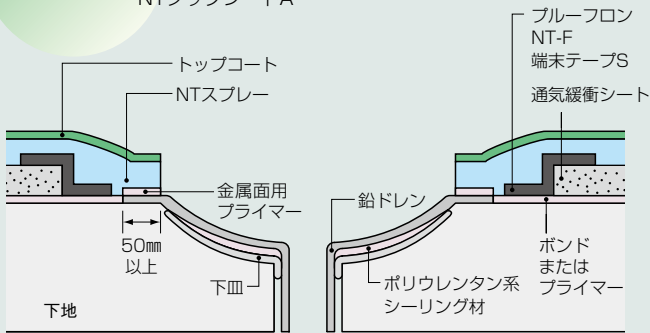
保護モルタル下地

NN工法[通気緩衝工法]



ドレンまわり(鉛改修ドレン)

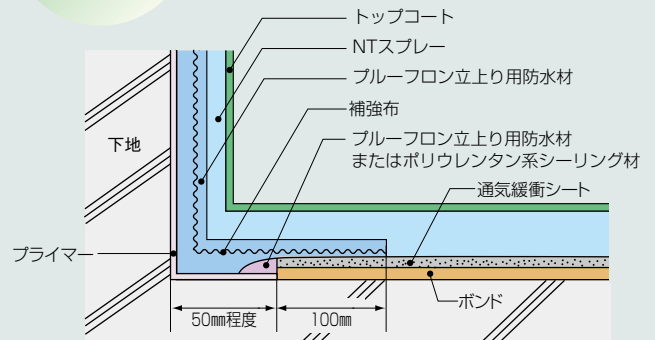
- 使用シート：ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートA



壁立上り③

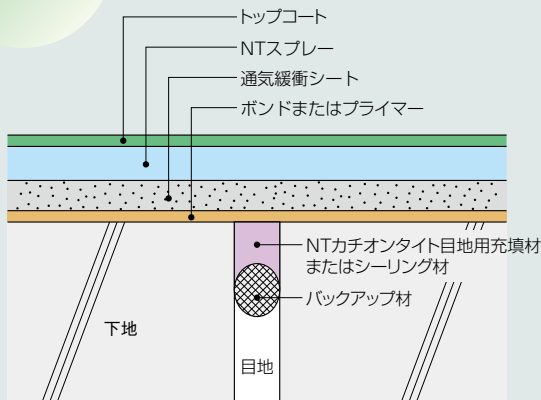
※X-1S工法とX-2SC立上り工法の取り合い

- 使用シート：ブルーフロンNT-Fシート#2



PC板

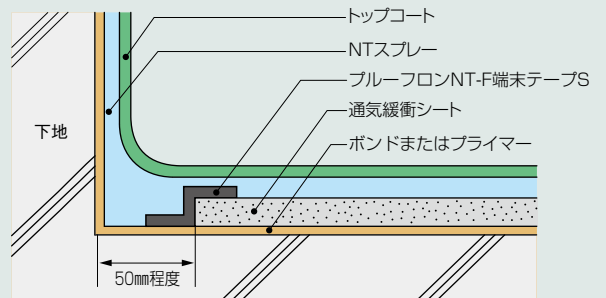
NN工法[通気緩衝工法]



壁立上り④

※NN工法とNM立上り工法
X-1SS工法とX-2SS立上り工法
X-1H工法とX-2H立上り工法の取り合い

- 使用シート：ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートA

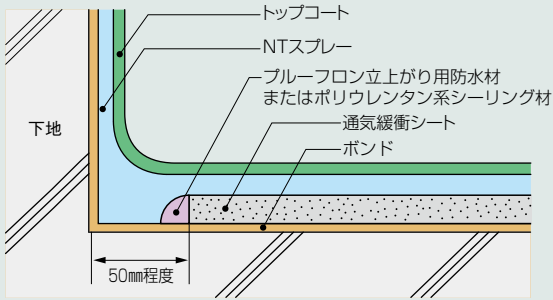


■各部位の納まり③

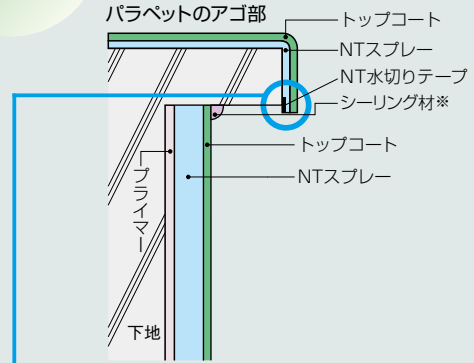
壁立上り⑤

※NN工法とNM立上り工法
X-1SS工法とX-2SS立上り工法
X-1H工法とX-2H立上り工法の取り合い

●使用シート：ブルーフロンNT-Fシート#2



パラペット・笠木 NT水切りテープ仕様



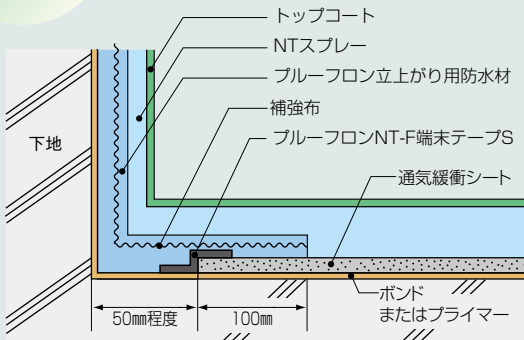
※被覆：ポリウレタン系シーリング材
(トップコート被覆処理)
露出：変性シリコン系シーリング材



壁立上り⑥

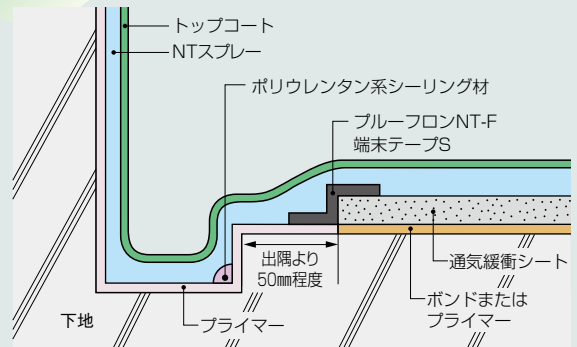
※平場X-1S工法と
X-2SC立上り工法の取り合い

●使用シート：ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートA

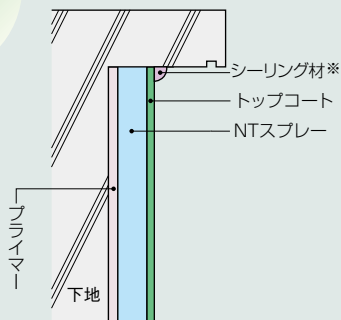


側溝と立上り NN工法[通気緩衝工法]

●使用シート：ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートA



パラペット・笠木

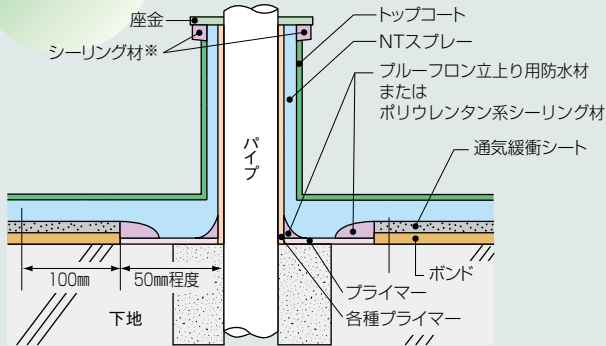


※被覆：ポリウレタン系シーリング材
(トップコート被覆処理)
露出：変性シリコン系シーリング材

※各部位の納まり図は一般的な例です。すべての施工において適用できるものではありません。

パイプまわり

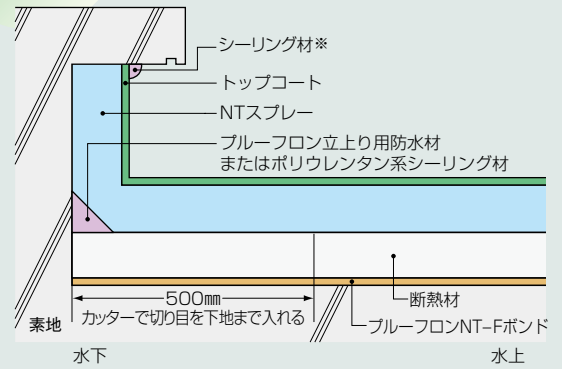
●使用シート：ブルーフロンNT-Fシート#2



※被覆：ポリウレタン系シーリング材（トップコート被覆処理）
露出：変性シリコン系シーリング材

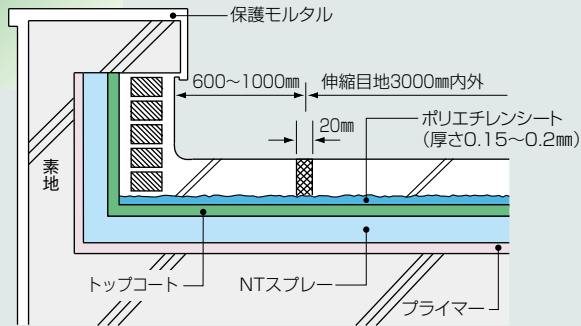
壁立上り部

ND工法[断熱・遮熱工法]



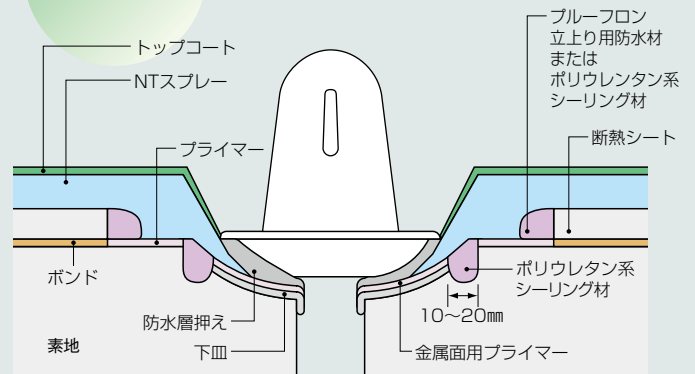
※被覆：ポリウレタン系シーリング材（トップコート被覆処理）
露出：変性シリコン系シーリング材

保護モルタル押さえ



ドレンまわり

ND工法[断熱・遮熱工法]

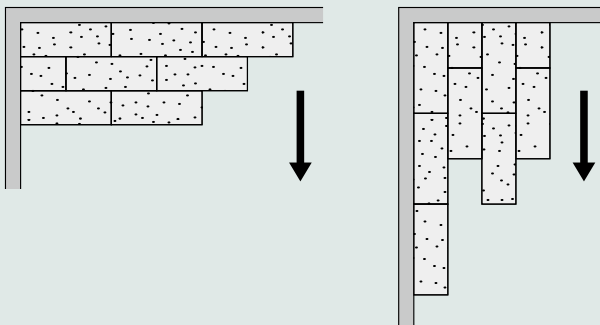


各種断熱材の敷並べ図

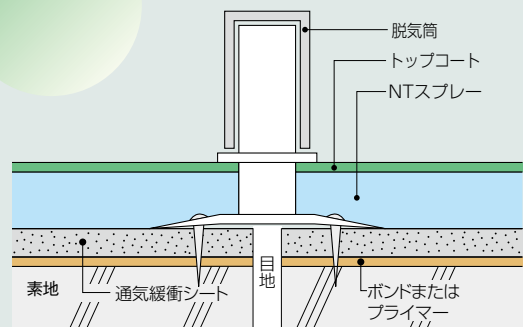
ND工法[断熱・遮熱工法]

NKD工法[機械的固定・断熱・遮熱工法]

※各種硬質断熱材の併せ部は3~5mmの隙間を設けてください。



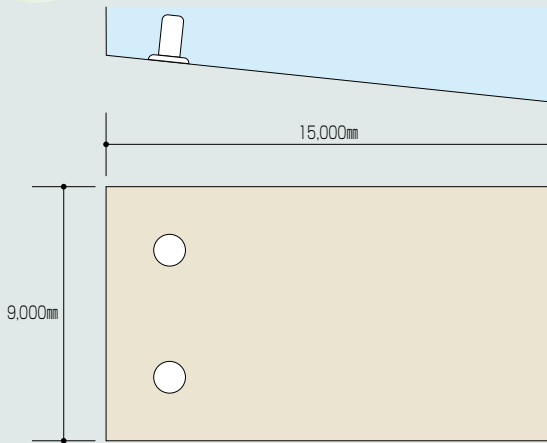
脱気筒まわり



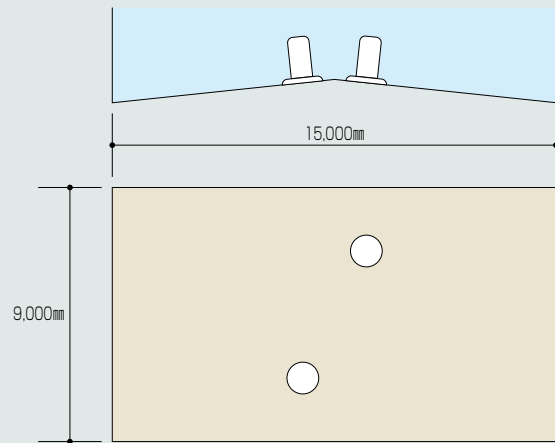
脱気筒の施工

脱気筒の設置例 (50~100㎡に1カ所)

■片流れ勾配

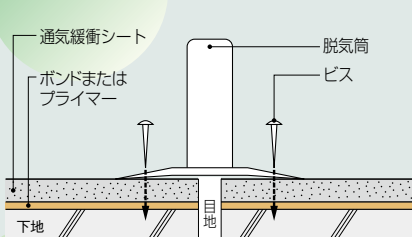


■両流れ勾配

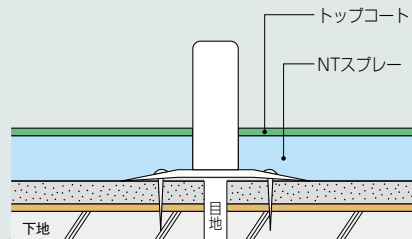


■注意事項 ●1日のうちでもっとも長い時間日光の当たる場所の、いちばん高い位置(目地部)に設置してください。

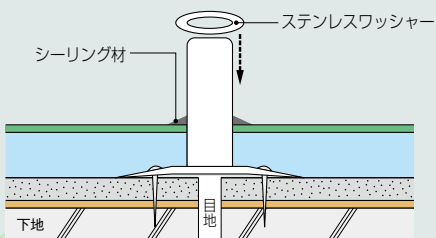
脱気筒施工の工程



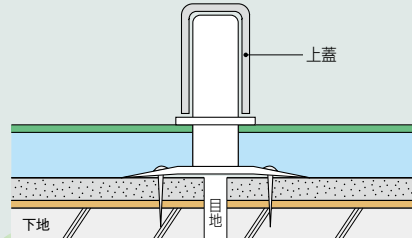
1 通气緩衝シートを張ったあと、脱気筒をビスで固定してください。その後、脱気筒の下部全体にプライマーを施工してください。



2 各種の防水施工を行ってください。

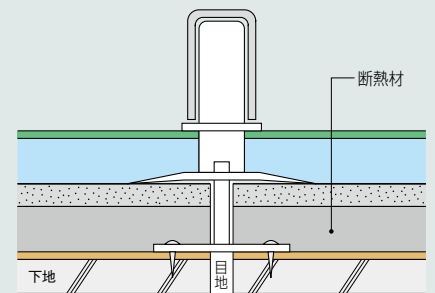


3 脱気筒と接合する防水層端末部分をシーリングし、ステンレスワッシャーを取り付けてください。



4 外筒が回らないように固定しながら、上蓋を締めてください。

NKD、ND工法で断熱材を使用した場合の納まり図(断熱用コアを使用した場合)



■注意事項 ●外筒の取り付け方向に注意し、上蓋を締めながら固定してください。
●各リングの取り付け位置に注意してください。

プライマー各種

製品名	ブルーフロン プライマーS	ブルーフロン プライマーU	ブルーフロン 塗り替え用 プライマー	NT エコプライマーU	ブルーフロンエコ 水性プライマー ホワイト	NT水性 塗り替え用 プライマーU	ユータック ECプライマー	
タイプ	標準タイプ	速乾タイプ 塗り替え用	速乾タイプ 塗り替え用	環境配慮 速乾タイプ	環境配慮 水性タイプ	環境配慮 水性タイプ	標準タイプ	
樹脂系	ウレタン樹脂系	ウレタン樹脂系	ウレタン樹脂系	ウレタン樹脂系	エポキシ樹脂系	ウレタン樹脂系	エポキシ樹脂系	
	溶剤形1液	溶剤形1液	溶剤形1液	溶剤形1液	水性2液	水性2液	溶剤形2液	
容量	16kg、4kg	16kg、4kg	12kg	16kg	16kgセット (A液8kg : B液8kg)	11kgセット (A液10kg : B液1kg)	16kgセット (A液12kg : B液4kg)	
混合比(重量比)	—	—	—	—	A : B = 1 : 1	A : B = 10 : 1	A : B = 3 : 1	
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.1~0.12kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.1kg/㎡	0.15~0.2kg/㎡	
可使時間(23℃)	—	—	—	—	3時間	3時間	8時間	
施工間隔	5~15℃	4~72時間	3~12時間	3~6時間	3~12時間	10~24時間	5~24時間	6~48時間
	15~25℃	3~48時間	2~12時間	2~6時間	2~12時間	4~24時間	4~24時間	4~48時間
	25~35℃	2~48時間	2~12時間	1~3時間	2~12時間	3~24時間	3~24時間	3~48時間

●施工間隔が短かすぎた場合、フクレ、剥離の原因となります。施工間隔があきすぎた場合は必ず艶がなくなるまでサンディング、清掃を行った後に再度プライマーを塗布してください。

【プライマーと下地の適合性】 ◎=適合(原液で使用) ○=適合(シンナーを等倍希釈して使用) ×=使用不可

製品名	ブルーフロン プライマーS	ブルーフロン プライマーU	ブルーフロン 塗り替え用 プライマー	NT エコプライマーU	ブルーフロンエコ 水性プライマー ホワイト	NT水性 塗り替え用 プライマーU	ユータック ECプライマー
モルタル、コンクリート	◎	◎	×	◎	◎	×	◎
既存ウレタン塗膜防水材	○	○	◎	○	×	◎(注1)	×
層間の塗り継ぎ	○	○	◎	○	×	×	×
FRP防水材	×	○	◎	○	×	×	×
エポキシ樹脂塗膜	×	○	◎	○	◎	×	◎

●FRP樹脂、エポキシ樹脂は必ず表面のサンディングが必要になります。FRP塗膜の上への施工には「シルビアEプライマー」もご使用できます。詳細は最寄りの営業所へお問い合わせください。

●ブルーフロンプライマーS、ブルーフロンプライマーUの希釈はブルーフロンGRトップシンナーを使用してください。環境配慮仕様はNTエコプライマーUをブルーフロンエコシンナーにて倍希釈して使用してください(使用量は混合材料で0.1~0.12kg/㎡程度となります)。

*既存塗膜が水性やシルバーの場合、著しく劣化している場合などは別途ご相談ください。

注1:ウレタン防水材が露出していない場合に限り。注2:トップコート仕上げの仕様は適合ですが、防水材を増し塗りする仕様は使用不可です。

金属面用プライマー各種

製品名	エポラオールプライマー	エポラ#3プライマー	NT金属用プライマーECO
樹脂系	変性エポキシ樹脂系	エポキシ樹脂系	エポキシ樹脂系
	弱溶剤形2液	溶剤形2液	環境配慮溶剤形2液
容量	16kgセット (A液14kg : B液2kg)	16.5kgセット (A液15kg : B液1.5kg)	16.5kgセット (A液15kg : B液1.5kg)
混合比(重量比)	A液 : B液 = 7 : 1	A液 : B液 = 10 : 1	A液 : B液 = 10 : 1
標準塗布量	0.15kg/㎡	0.15kg/㎡	0.15kg/㎡
刷毛、ローラー施工時の 希釈率(セットに対し)	無希釈	エポラ#3シンナー 10~15%	NTエポキシシンナーECO 0~5%
可使時間(23℃)	6時間	6時間	6時間
施工間隔	5~15℃	12~72時間	12~72時間
	15~25℃	6~72時間	6~72時間
	25~35℃	5~72時間	5~72時間

●金属面用プライマー施工後、降雨に曝されたり、施工間隔を超えた場合はブルーフロンプライマーU、ブルーフロンプライマーSの施工が必要となります。

●各種金属用プライマーをご使用の際は、各プライマーの単品カタログをご参照ください。

【金属面用プライマーと下地の適合性】 ○=適合 ×=使用不可

製品名	エポラオールプライマー	エポラ#3プライマー	NT金属用プライマーECO
鋼板	○	×	○
アルミ板	○	○	○
ステンレス板	○	○	○
ガルバリウム鋼板	○	○	○
旧塗膜有(塩ビ系樹脂以外)	○	×	×

●金属面用プライマー施工後、降雨に曝されたり、施工間隔を超えた場合はブルーフロンプライマーU、ブルーフロンプライマーSの施工が必要となります。

●フッ素鋼板の場合はメーカー、経過年数、劣化状況により、付着性が異なるため、必ず施工前に付着性試験を行ってください。

トップコート各種

【溶剤タイプ】

製品名	ブルーフロン GRトップエコ	ブルーフロン GRトップ遮熱	ブルーフロン GRトップ フッ素	ブルーフロン GRトップ	ユータックFT
樹脂系	アクリルウレタン樹脂系 溶剤形2液	アクリルウレタン樹脂系 溶剤形2液	フッ素樹脂系 溶剤形2液	アクリルウレタン樹脂系 溶剤形2液	アクリルウレタン樹脂系 溶剤形2液
備考	環境配慮タイプ 艶あり	遮熱タイプ 艶あり	超高耐候性タイプ 艶あり	標準タイプ 艶あり	標準タイプ 艶あり
容量	16kgセット (A液12kg、B液4kg)	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)	18kgセット (A液15kg、B液3kg) 6kgセット (A液5kg、B液1kg)
混合比(重量比)	A液：B液=3：1	A液：B液=5：1	A液：B液=5：1	A液：B液=5：1	A液：B液=5：1
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡
希釈率(セットに対して)	0～5%*1	0～20%*2	0～20%*2	0～20%*2	0～20%*2
可使時間(23℃)	3時間以内	4時間以内	4時間以内	4時間以内	4時間以内
歩行可能時間(23℃)	24時間以上	24時間以上	24時間以上	24時間以上	24時間以上
硬化促進剤	<ul style="list-style-type: none"> ブルーフロン溶剤系トップコート硬化促進剤 溶剤トップ硬化促進剤×5 				

●2回塗りする場合の使用量は、0.15kg/㎡×2回となります。

製品名	ブルーフロン EGトップ4F遮熱	ブルーフロン EGトップ4F	ブルーフロン EGトップSi
樹脂系	4フッ化フッ素樹脂系 溶剤形2液	4フッ化フッ素樹脂系 溶剤形2液	シリコン樹脂系 溶剤形2液
備考	超高耐候性、環境配慮遮熱タイプ 艶あり	超高耐候性、環境配慮タイプ 艶あり	高耐候性、環境配慮タイプ 艶あり
容量	15kgセット (A液10kg、B液5kg)	15kgセット (A液10kg、B液5kg)	15kgセット (A液9kg、B液6kg)
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡
混合比(重量比)	A液：B液=2：1	A液：B液=2：1	A液：B液=3：2
希釈率(セットに対して)	無希釈	無希釈	無希釈*1
硬化促進剤	ブルーフロンEGトップ4F専用硬化促進剤		
硬化促進剤 添加量 (15kgセットに対して)	5～10℃ 0.12kg 10～25℃ 0.08kg 25℃以上 不要	0.12kg 0.08kg 不要	不要
可使時間(23℃)	4時間以内	4時間以内	4時間以内
歩行可能時間(23℃)	24時間以上	24時間以上	24時間以上

●2回塗りする場合の使用量は、0.15kg/㎡×2回となります。

*1：適用シンナー：ブルーフロンエコシンナー。冬季などで粘度が高い場合は、塗料に対し5%以内で希釈してください。

*2：適用シンナー：ブルーフロンGRトップシンナー。

注：トップコートはNTスプレー施工後、48時間以内に施工してください。せん断応力がかりやすい条件で使用される場合(駐車場、競技場など)は24時間以内、できればNTスプレー施工と同日にトップコートを施工してください。

【ブルーフロン溶剤系トップコート硬化促進剤】

(各16kgセット、18kgセットに対する各温度と添加量の概要)

気温	添加量	添加量				
		なし	100g	200g	300g	400g
5℃	軽歩行可能時間	24時間	16時間	12時間	8時間	6時間
	可使時間	12時間	10時間	8時間	6時間	4時間
15℃	軽歩行可能時間	9時間	8時間	6時間	5時間	4時間
	可使時間	8時間	6時間	4時間	3.5時間	3時間
25℃	軽歩行可能時間	6時間	5時間	4時間	3時間	2時間
	可使時間	4時間	3.5時間	3時間	2時間	1時間
35℃	軽歩行可能時間	4時間	3時間	2時間	1.8時間	1.5時間
	可使時間	3時間	2時間	1時間	50分	40分

●硬化を速めたい場合に、目安として使用ください。また、硬化促進剤は、塗料に対して、十分な攪拌を行ってからご使用ください。

●軽歩行可能時間は、塗装時、塗装後の環境条件により変わることがありますので、参考値としてください。

【溶剤トップ硬化促進剤×5】

(各16kgセット、18kgセットに対する各温度と推奨添加量)

気温	添加量	添加量					
		なし	36g	72g	108g	144g	180g
5℃	軽歩行可能時間	24時間	16時間	9時間	7時間	6時間	5時間
	可使時間	12時間	10時間	8時間	6時間	5時間	4時間
10℃	軽歩行可能時間	16時間	9時間	8時間	6時間	5時間	4時間
	可使時間	10時間	8時間	7時間	5時間	4時間	3時間
15℃	軽歩行可能時間	9時間	7時間	6時間	5時間	4時間	—
	可使時間	8時間	6時間	5時間	3.5時間	3時間	—
25℃	軽歩行可能時間	6時間	5時間	4時間	—	—	—
	可使時間	4時間	3.5時間	3時間	—	—	—

●網掛け部分は、各温度での推奨添加量です。

●気温25℃以下の条件下で、塗装後の結露、露露などが想定される場合の白化対策に使用ください。

●気温25℃以上の条件下では、可使時間が短くなるため使用しないでください。

●硬化促進剤は、塗料に対して、十分な攪拌を行ってからご使用ください。

●軽歩行可能時間は、塗装時、塗装後の環境条件により変わることがありますので、参考値としてください。

トップコート各種

【水性タイプ】

製品名	ブルーフロンエコ 水性GRトップ遮熱※1	ブルーフロンエコ 水性GRトップ※1	ブルーフロン 水性上塗シルバー
樹脂系	アクリルウレタン樹脂系 水性2液	アクリルウレタン樹脂系 水性2液	アクリル樹脂系 水性1液
備考	遮熱タイプ 艶あり	環境配慮タイプ 艶あり	非歩行用 シルバー色
容量	11kgセット (A液10kg、B液1kg)	11kgセット (A液10kg、B液1kg)	15kg
混合比(重量比)	A液:B液=10:1	A液:B液=10:1	—
希釈率(セットに対して)	0~2%	0~2%	無希釈
標準塗布量	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡	0.2kg/㎡
可使時間(23℃)	1時間以内	1時間以内	—
歩行可能時間(23℃)	24時間以上	24時間以上	24時間以上

※1：ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱、ブルーフロンエコ水性GRトップの場合、施工後の補修、タッチアップは指触乾燥後24時間以内(23℃)に行ってください。それ以上施工間隔があいた場合はNT水性塗り替え用プライマー-Uを施工し、トップコートを再度施工してください。

注)ブルーフロン水性上塗シルバーはベランダやバルコニー、開放廊下、階段など歩行される場所には使用しないでください。

【トップコートと防水層の適合性】

○=適合 ×=使用不可

トップコート	防水層	NTスプレー タイプS NTスプレー タイプS10 NTスプレー タイプH	トップコート	防水層	NTスプレー タイプS NTスプレー タイプS10 NTスプレー タイプH
ブルーフロンGRトップエコ		○	ブルーフロンEGトップSi		○
ブルーフロンGRトップ遮熱		○	ユータックFT		○
ブルーフロンGRトップフッ素		○	ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱		×
ブルーフロンGRトップ		○	ブルーフロンエコ水性GRトップ		×
ブルーフロンEGトップ4F遮熱		○	ブルーフロンエコ水性トップ		×
ブルーフロンEGトップ4F		○	ブルーフロン水性上塗シルバー		○

【ブルーフロントップコート各種2回塗りの場合の施工間隔】

※実際の施工現場において、下地温度・風量・湿度・希釈量・下層の硬化状態・塗料のたまりなどの要因から、大幅に時間が前後するため、参考値としてください。

●溶剤タイプ

製品名	ブルーフロン GRトップエコ	ブルーフロン GRトップ遮熱	ブルーフロン GRトップフッ素	ブルーフロン GRトップ	ユータックFT	ブルーフロン EGトップ4F遮熱※	ブルーフロン EGトップ4F※	ブルーフロン EGトップSi
5~15℃	5~72時間	3~72時間	3~72時間	3~72時間	3~72時間	6~72時間	6~72時間	5~72時間
15~25℃	3~72時間	2~72時間	2~72時間	2~72時間	2~72時間	3~72時間	3~72時間	3~72時間
25~35℃	2~72時間	1.5~72時間	1.5~72時間	1.5~72時間	1.5~72時間	2~72時間	2~72時間	2~72時間

※低温時はブルーフロンEGトップ4F専用硬化促進剤を添加してください。

製品名	ブルーフロンエコ 水性GRトップ遮熱	ブルーフロンエコ 水性GRトップ	ブルーフロン 水性上塗シルバー
5~15℃	8~36時間	8~36時間	8~72時間
15~25℃	5~24時間	5~24時間	5~72時間
25~35℃	3~24時間	3~24時間	3~72時間

【防滑材の混合量】

ブルーフロントップコート各種※に対する防滑材の混入量は、各トップコートに対して、エストップ#20は3~5%(重量%)、NTマイクロ骨材は2%(重量%)です。

※ブルーフロン水性上塗シルバーを除く。

【環境配慮仕様時のプライマーとトップコート】

●環境配慮(低臭)仕様で使用可能なプライマーおよび接着剤

下地	プライマーおよび接着剤		
コンクリート下地	プライマー	溶剤形	NTエコプライマー-U
		水性	ブルーフロンエコ水性プライマーホワイト※3
	接着剤	無溶剤形	ブルーフロンNT-FエコボンドH※3
		水性	ブルーフロンNT-F水性ボンド※3
既存ウレタンゴム系塗膜防水材	プライマー	溶剤形	NTエコプライマー-U※1
		水性	NT水性塗り替え用プライマー-U※3
加硫ゴムシート	プライマー	溶剤形	NTゴムシートバインダー
金属	プライマー	水性	NT金属用プライマー-ECO※2

※1：ブルーフロンエコシンナーにて2倍希釈し、ご使用ください。

※2：塗料の希釈はNTエコシンナー-ECOをご使用ください。

※3：低臭仕様の場合、ご使用ください。

●環境配慮(低臭)仕様で使用可能なトップコート

溶媒	製品名
溶剤形	ブルーフロンEGトップ4F遮熱
	ブルーフロンEGトップ4F
	ブルーフロンEGトップSi
	ブルーフロンGRトップエコ
水性	ブルーフロン水性上塗シルバー

●低臭仕様の場合は水性トップコートをご使用ください。

●ブルーフロン水性上塗シルバーは、ベランダやバルコニー、開放廊下、階段など歩行される場所には使用しないでください。

通気緩衝シート各種

製品名	ブルーフロン NT-FタックシートS	NTタックシートA	ブルーフロン NT-Fシート#2
組成	自着層付き不織布改質アスファルト積層シート	自着層付きガラス繊維ブチルゴム積層シート、突き付けタイプ	ポリエチレン不織布シート
寸法	幅1.04m×長さ15.7m/巻	幅1.0m×長さ10m/巻	幅1.0m×長さ25m/巻
厚さ(平均)	1.5mm	1.5mm	1.4mm
引張強度	たて	226N/cm	578N/5cm
	よこ	193N/cm	549N/5cm
伸び	たて	5%	69%
	よこ	5%	71%
使用可能なテープの種類	NTジョイントテープイエロー ブルーフロンNT-F端末テープS NTジョイントテープダブル	NTジョイントテープイエロー ブルーフロンNT-F端末テープS NTジョイントテープダブル	NTジョイントテープイエロー NTジョイントテープダブル

●いずれの物性値も代表値であり、保証値ではありません。 ●ブルーフロンNT-FタックシートS(突き付けタイプ)は幅1m×長さ15mの寸法となります。

※ゴム層単体の伸び率。

【接着剤(ボンドとプライマー)の塗布方法】

製品名	成分	標準塗布量	塗布部位	塗装方法	シート張りまでの施工間隔(23℃)
ブルーフロンNT-Fボンド	クロロプレンゴム系	0.6~0.8kg/m ² (下地、シート:0.3kg)	両面	ローラー、刷毛	20分~8時間
ブルーフロンプライマー-S	1液湿気硬化溶剤ウレタン樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	3時間~72時間
ブルーフロンプライマー-U	1液湿気硬化溶剤ウレタン樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	2時間~12時間
NTエコプライマー-U	環境配慮型1液湿気硬化溶剤ウレタン樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	2時間~12時間
ブルーフロンエコ水性プライマーホワイト	環境配慮型2液水性エポキシ樹脂系	0.2kg/m ²	片面	ローラー、刷毛	4時間~24時間

【接着用ボンドとプライマーの通気緩衝シートとの適応】 ○=適合 ×=使用不可

製品名	ブルーフロン NT-FタックシートS	NTタックシートA	ブルーフロンNT-Fシート#2
ブルーフロンNT-Fボンド	○※1	○	○
ブルーフロンプライマー-S	○	○	×
ブルーフロンプライマー-U	○	○	×
NTエコプライマー-U	○	○	×
ブルーフロンエコ水性プライマーホワイト	○	○	×

※1：ブルーフロンNT-FボンドをブルーフロンNT-FタックシートSに使用する場合は、ボンドは下地(片面)のみに塗布してください。

製品一覧①

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※1	
下地処理材	NTカチオンタイトF	20kgセット(パウダー:16kg、硬化液:4kg)	カチオン系ラテックスモルタル樹脂系	—	○	
	NTカチオンタイト目地用充填材	6kg	NTカチオンタイトF用ガラス発泡骨材 (通気緩衝工法専用コンクリート目地処理材)	—	○	
	NTカチオンフィラー	30kgセット(主材:20kg、硬化液:10kg)	セメント・ポリマー複合型 カチオンセメント	—	○	
	ブルーフロンAS活性化材N	20kg	溶剤アスファルト樹脂系 露出アスファルト防水面改修用	—	▲	
	NTミラクルフィラー ※2	20kgセット (A液:4kg、B液:4kg、 パウダー:12kg)	エポキシ樹脂セメント系 下地処理兼用プライマー	N03179	○	
	NTカチオンエース	20kg	セメント・ポリマー複合型カチオンセメント JIS A 6916 下地調整塗材C-1・C-2認証	N03202	○	
	NTエポキシ速乾フィラー	34kgセット (主材:4kg、硬化剤:4kg、 パウダー:26kg(13kg×2袋))	エポキシ樹脂セメント系 速乾型	—	○	
	ブルーフロン断熱フィラー	18kg	セメント・ポリマー複合型カチオンセメント 断熱タイプ	—	○	
	NT吸水調整剤	18kg	エチレン酢酸ビニル重合体エマルジョン セメント系下地調整材用吸水調整剤	—	○	
仮防水材	ブルーフロンアクア	20kgセット (混和液:12kg、 パウダー:8kg)	ポリマーセメント系塗膜防水材	N03195	○	
金属面用 プライマー	エポラオールプライマー	16kgセット(A液:14kg、B液:2kg) 4kgセット(A液:3.5kg、B液:0.5kg)	2液弱溶剤変性エポキシ樹脂系 鉄部、非鉄金属用	N03251	▲	
	エポラ#3プライマー	16.5kgセット(A液:15kg、B液:1.5kg) 1.1kgセット(A液:1kg、B液:0.1kg)	2液溶剤エポキシ樹脂系 非鉄金属用	N03188	▲	
	NT金属用プライマー ECO	16.5kgセット(A液:15kg、B液:1.5kg) 3.3kgセット(A液:3kg、B液:0.3kg)	2液溶剤エポキシ樹脂系 鉄部、非鉄金属用	N03256	○	
プライマー	溶剤形	ブルーフロンプライマーS	16kg、4kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 モルタル・コンクリート・層間塗継ぎ用 浸透タイプ	N03121	▲
		ブルーフロンプライマーU	16kg、4kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 モルタル・コンクリート・層間塗継ぎ用 速乾タイプ	N03124	▲
		NTエコプライマーU	16kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 モルタル・コンクリート・層間塗継ぎ用 速乾タイプ	N03231	○
		NT塩ビシートプライマー	12kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 塩ビシート用 速乾タイプ	N03253	▲
		ブルーフロン塗り替え用プライマー	12kg	湿気硬化型1液溶剤ウレタン樹脂系 層間プライマー 速乾タイプ	N03219	▲
		ブルーフロンUR層間プライマー	12kg	湿気硬化型1液ウレタン樹脂系 層間プライマー 速乾タイプ	N03254	○
		NTゴムシートバインダー	6kgセット(A液:4kg、B液:2kg)	2液溶剤エポキシ樹脂系 加硫ゴムシート用	—	○
		ユータックECプライマー	16kgセット(A液:12kg、B液:4kg) 4kgセット(A液:3kg、B液:1kg)	2液溶剤エポキシ樹脂系 モルタル・コンクリート用	JIS K 5970 認証	▲
	水性	ブルーフロンエコ水性プライマーホワイト	16kgセット(A液:8kg、B液:8kg)	2液水性エポキシ樹脂系 モルタル・コンクリート用	N03138	○
NT水性塗り替え用プライマーU ※3		11kgセット(A液:10kg、B液:1kg)	2液水性ウレタン樹脂系 層間プライマー 弾性・無黄変タイプ	N03258	○	
粘度調整・ 洗浄液	ブルーフロンエコシンナー	16ℓ	溶剤形プライマー、ウレタン防水材、 ウレタン系保護材、溶剤系トップコート用	—	○	
	ブルーフロンGRトップシンナー	16ℓ・4ℓ	ブルーフロンGRトップ各種、ユータックFT用	—	▲	
	ブルーフロンシンナー	16ℓ・4ℓ	ウレタン防水用	—	▲	
	ブルーフロンエコONEⅡ希釈剤	16ℓ	ブルーフロンエコONEⅡ、エコONE NSⅡに使用	—	○	
	エポラ#3シンナー	16ℓ	エポラ#3プライマー用	—	▲	
	NTエポキシシンナー ECO	16ℓ・4ℓ	NT金属用プライマー ECO用	—	○	

※1:○=特化則非該当製品:特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲=エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

※2:NTスプレーの下地として使用する場合はプライマーが必要になります。

※3:NTスプレーの塗り継ぎ用途の層間プライマーとしては使用できません。トップコートが塗布されている場合は使用できます。

製品一覧②

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※1	
ウレタンゴム系塗膜防水材	平場用	ブルーフロンエコHG	20kgセット(主剤:8kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03261	○
		ブルーフロンエコDX	18kgセット(主剤:6kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03248	○
		ブルーフロンバリューDX	20kgセット(主剤:5kg、硬化剤:15kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03272	○
	中粘度	ブルーフロンエコONEII	18kg、9kg 角缶	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 1液ウレタン樹脂	N03233	○
		ブルーフロンエコHG MID	20kgセット(主剤:8kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03274	○
	立上り用	ブルーフロンエコDX MID	18kgセット(主剤:6kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 平場用 認証 2液ウレタン樹脂	N03255	○
		ブルーフロンエコHG NS	20kgセット(主剤:8kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 立上がり用 認証 2液ウレタン樹脂	N03260	○
		ブルーフロンエコDX NS	18kgセット(主剤:6kg、硬化剤:12kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 立上がり用 認証 2液ウレタン樹脂	N03249	○
		ブルーフロンバリューDX NS	20kgセット(主剤:5kg、硬化剤:15kg) ペール缶および角缶対応	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 立上がり用 認証 2液ウレタン樹脂	N03273	○
		ブルーフロンエコONE NSII	9kg 角缶	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高伸長形 立上がり用 認証 1液ウレタン樹脂	N03234	○
超速硬化ウレタン吹付け材	NTスプレー タイプS10	390kgセット (A液:182kg、B液:200kg、 トナー:8kg) 35kgセット (A液:16.4kg、B液:18kg、 トナー:0.6kg)	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系 高強度形 高伸長形 共用 認証 2液ウレタン樹脂(トナー着色) 超速硬化タイプ 専用機械使用	N03296	○	
	NTスプレー タイプH	390kgセット (A液:182kg、B液:200kg、 トナー:8kg) 35kgセット (A液:16.4kg、B液:18kg、 トナー:0.6kg)	JIS A 6021屋根用ウレタンゴム系高強度形 共用 認証 2液ウレタン樹脂(トナー着色) 超速硬化タイプ 専用機械使用	N03220	○	
	NTスプレー タイプU	410kgセット(A液:210kg、B液:200kg) 41kgセット(A液:21kg、B液:20kg)	2液ウレア樹脂 超速硬化タイプ 専用機械使用	N03250	○	
ウレタン系保護材	ユータックFエコ	20kgセット(A液:10kg、B液:10kg)	JIS K 5970建築用床塗料 認証 2液ウレタン樹脂系保護材	JIS K 5970 認証	—	
アークロコトップ	溶剤形	ブルーフロンEGトップ4F遮熱	15kgセット(A液:10kg、B液:5kg)	2液溶剤4フッ化フッ素樹脂系 艶あり、遮熱タイプ	—	○
		ブルーフロンEGトップ4F	15kgセット(A液:10kg、B液:5kg)	2液溶剤4フッ化フッ素樹脂系 艶あり	N03223	○
		ブルーフロンEGトップSi	15kgセット(A液:9kg、B液:6kg)	2液溶剤アクリルシリコン樹脂系 艶あり	N03267	○
		ブルーフロンGRトップエコ	16kgセット(A液:12kg、B液:4kg)	2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり	N03210	○
		ブルーフロンGRトップ遮熱	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり、遮熱タイプ	—	▲
		ブルーフロンGRトップフッ素	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	2液溶剤フッ素樹脂系 艶あり	N03183	▲
		ブルーフロンGRトップ	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり	N03122	▲
		ユータックFT	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	JIS K 5970建築用床塗料 認証 2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり	JIS K 5970 認証	▲
		ユータックR	18kgセット(A液:15kg、B液:3kg) 6kgセット(A液:5kg、B液:1kg)	JIS K 5970建築用床塗料 認証 2液溶剤アクリルウレタン樹脂系 艶あり	JIS K 5970 認証	▲
	スーパーパラサーモシリコン	16kgセット(A液:14kg、B液:2kg)	JIS K 5675 2種1級屋根用高日射反射率塗料 認証 2液弱溶剤シリコン樹脂系 艶あり	—	▲	
	水性	ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱	11kgセット(A液:10kg、B液:1kg)	2液水性アクリルウレタン樹脂系 艶あり 遮熱タイプ	—	○
		ブルーフロンエコ水性GRトップ	11kgセット(A液:10kg、B液:1kg)	2液水性アクリルウレタン樹脂系 艶あり	N03182	○
		ブルーフロンエコ水性トップ	18kg	1液水性アクリルエマルジョン樹脂系 (無機質系骨材入り) 艶消し 防滑タイプ	N03145	○
		ブルーフロン水性上塗シルバー	15kg	1液水性アクリルエマルジョン樹脂系 シルバー 非歩行タイプ	—	○
		ブルーフロンURトップ	20kg	水性アクリルエマルジョン樹脂系(無機質系骨材入り) 艶消し 防滑タイプ	N03211	○

※1:○=特化則非該当製品:特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲=エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

製品一覧③

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※
補強布	ガラスクロスCAG45	幅1.01m×長さ100m/巻 重量：約4～5kg	ガラス繊維織布	—	○
	ガラスクロスCAG60	幅1.04m×長さ100m/巻 重量：約6～7kg	ガラス繊維織布	—	○
	ブルーフロンアクアクロス	幅1.02m×長さ100m/巻 重量：約5kg	ガラス繊維補強ポリエステル系不織布 ソフトタイプ	—	○
	ブルーフロンソフトクロス	幅1.02m×長さ50m/巻 重量：約3.5kg	ポリエステル繊維織布 ソフトタイプ	—	○
	ブルーフロン補強テープVS	幅10cm×長さ50m/巻 幅14cm×長さ50m/巻 幅20cm×長さ50m/巻 幅30cm×長さ50m/巻 幅50cm×長さ50m/巻	ポリエステル繊維織布 ソフトタイプのり付き	—	○
通気緩衝シート	ブルーフロンNT-FタックシートS	厚さ1.5mm×幅1.04m×長さ15.7m/巻(15㎡分) 重量：約18.5～19kg	ガラス繊維強化改質アスファルト積層シート 自着層付き、重ね張りタイプ	—	○
	ブルーフロンNT-FタックシートS 突き付けタイプ	厚さ1.5mm×幅1.0m×長さ15m/巻(15㎡分) 重量：約18～18.5kg	ガラス繊維強化改質アスファルト積層シート 自着層付き、突き付けタイプ	—	○
	NTタックシートA	厚さ1.5mm×幅1.0m×長さ10m/巻(10㎡分) 重量：約26kg	ガラス繊維 プチルゴム積層シート 自着層付き、突き付けタイプ	—	○
	ブルーフロンNT-Fシート#2	厚さ1.4mm×幅1.0m×長さ25m/巻(25㎡分) 重量：9kg	ポリエチレン繊維 突き付けタイプ	—	○
	ブルーフロンNT-Fシート#2 (フィルム付き)	厚さ1.4mm×幅1.0m×長さ25m/巻(25㎡分) 重量：15kg	ポリエステルフィルム付きポリエチレン繊維 突き付けタイプ	—	○
ボンド 通気緩衝シート 用	溶剤形 ブルーフロンNT-Fボンド	15kg	クロロプレンゴム樹脂系 両面タイプ	—	○
	無溶剤形 ブルーフロンNT-FエコボンドH	10kg(クシゴテ付き)	1液無溶剤ウレタン樹脂系 片面タイプ	N03184	○
	水性 ブルーフロンNT-F水性ボンド	18kg	水性アクリルエマルジョン樹脂系 片面タイプ	N03203	○
補助剤	ミルコンMS-2(ダレ止め剤)	5kg	ウレタン防水材用増粘材 粉状タイプ	—	○
	アエロジルRY-200S	5kg	増粘剤・粉状タイプ	—	○
	液状ダレ止め剤DX	15kg・4kg	ブルーフロンバリュー DX用増粘材 液状タイプ	—	○
	ブルーフロンエコDX・エコHG 共用硬化促進剤	1kg	防水層用硬化促進剤 ブルーフロンエコDX、エコDX NS・エコHG、 エコHG NSに使用	—	○
	ブルーフロンバリューDX硬化促進剤	16kg・3.5kg・1kg	防水層用硬化促進剤 ブルーフロンバリュー DX、バリュー DX NSに使用	—	○
	ブルーフロンエコONEII硬化促進剤	4kg・1kg	防水層用硬化促進剤 ブルーフロンエコONEII、エコONE NSIIに使用	—	○
	ブルーフロン溶剤系トップコート 硬化促進剤	1kg	2液溶剤トップコート用硬化促進剤	—	○
	溶剤トップ硬化促進剤×5	1kg	2液溶剤トップコート用硬化促進剤冬期専用	—	○
	ブルーフロンEGトップ4F専用 硬化促進剤	1kg	専用硬化促進剤 ブルーフロンEGトップ4F、4F遮熱に使用	—	○
	ポータブルマシン用洗剤 PGM	16ℓ	洗剤	—	○
	ポータブルマシン用充填材	15kg	スプレーマシン、ホース用充填材	—	○
	エストップ#20	12kg、1.2kg(0.6kg×2袋)	防滑仕上げ用軽量チップ トップコートの防滑用	—	○
	NTマイクロ骨材	1kg	防滑仕上げ用軽量骨材 トップコートの防滑用	—	○
	PSパウダー	16kg(4kg×4袋入り)	素地調整 兼 置換泡、膨れ抑制用 添加骨材	—	○

※：○＝特化則非該当製品：特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲＝エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用の場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

製品一覧④

品種	品名	荷姿	成分、組成、用途、特徴	F☆☆☆☆ 登録番号	特化則 非該当※
副資材	NTジョイントテープイエロー	幅50mm×長さ50m/巻 1本単位	PET製テープ 全ての通気緩衝シートのジョイント処理用テープ	—	○
	NTジョイントテープダブル	幅90mm×長さ50m/巻 1本単位	補強布付きPET製テープ 全ての通気緩衝シートのジョイント処理用テープ	—	○
	ブルーフロンNT-F端末テープS	幅75mm×長さ25m/巻 1本単位	ブチルゴム製粘着層付き緩衝用テープ ブルーフロンNT-FタックシートS、NTタックシートA用 端末処理用テープ	—	○
	NTブチルテープ	幅50mm×長さ20m/巻 幅100mm×長さ20m/巻 各1本単位	ブチルゴム製粘着層付きテープ 緩衝用テープ	—	○
	NTブチルテープAL	幅50mm×長さ20m/巻 幅100mm×長さ20m/巻 各1本単位	アルミ箔付ブチルゴム製粘着層付きテープ 緩衝用テープ	—	○
	NT水切りテープ	幅50mm×長さ50m/巻 1本単位	ガラス繊維テープ パラペットアゴ用水切りテープ	—	○
	アルミキャント40	幅30-40-30mm長さ2m×厚さ0.8mm、 10本/箱(10穴/本)	入隅用押さえアルミ金具 機械固定用	—	○
	端末プレート	幅30mm×長さ2m×厚さ3.3mm 20本/箱 (5穴/本)	端末用押さえアルミ金具 機械固定用	—	○
	キャントプレートアンカー 40	つば13mm×長さ40mm 500本/箱	アルミ製アンカー アルミキャント用	—	○
	メカニカルアンカー 40	つば30mm×長さ40mm 500本/箱	アルミ製アンカー 機械固定用	—	○
	メカニカルアンカー 70	つば30mm×長さ70mm 500本/箱	アルミ製アンカー 機械固定用	—	○
	メカニカルアンカー 100	つば30mm×長さ100mm 500本/箱(受注生産)	アルミ製アンカー 機械固定用	—	○
	ダモ脱気筒一般用(丸型)	台座φ190×194mm φ60.5×高さ190mm 2個/箱	耐蝕ステンレス製 脱気装置	—	○
	断熱用コア(ダモ脱気筒用)	台座140×140×高さ140mm 2個/箱	耐蝕ステンレス断熱用コア	—	○
	鉛改修ドレン	1個単位	鉛製改修ドレン 縦、横引き共通	—	○
	鉛ドレン用蛇腹	1個単位	塩ビ製蛇腹 締め付けバンド付き	—	○
	ウレタン改修ドレン タテ型(非鉛)	2個/箱	アルミとウレタンゴムの複合材 縦引き用	—	○
	ウレタン改修ドレン ヨコ型(非鉛)	2個/箱	アルミとウレタンゴムの複合材 横引き用	—	○
	目皿	1個単位	アルミ合金ダイカスト製 タテ型、ヨコ型	—	○
	飛散防止改修ストレーナー	2個/箱	アルミダイカスト製 タテ型のみ	—	○
ブルーフロン断熱材	(15ページをご参照ください)	発泡ポリエチレンフォーム 軟質断熱材、断熱工法用シート	—	○	
ブルーフロン硬質断熱材	(11ページをご参照ください)	発泡ポリウレタンフォーム 硬質断熱材、断熱工法用シート	—	○	
ブルーフロン硬質断熱材AL	200枚単位	発泡ポリウレタンフォーム 両面アルミ被覆硬質断熱材、断熱工法用シート	—	○	

※：○=特化則非該当製品：特定化学物質障害予防規則に該当しない製品。▲=エチルベンゼンを含有しているため、屋内で使用する場合は特定化学物質障害予防規則の対象となります。

■下地条件・処理について

- 現場打ちのコンクリートは、設計基準強度を満たしていることが条件です。
- コンクリート打設後の降雨などで強度が著しく低下している場合は、ハツリ撤去のうえコンクリートを打ち直すなどの処置をして強度を回復させてください。
- 下地が十分に乾燥していることを確認してください。
- コンクリート打設後の養生は充分に行ってください。
 - ・コンクリートの場合の目安……夏期(打設後3週間以上)、冬期(打設後4週間以上)
 - ・モルタルの場合の目安……夏期(打設後2週間以上)、冬期(打設後3週間以上)
- ※デッキプレートなどに打設した場合は乾燥が遅れますので、さらに乾燥養生が必要となります。
- 高圧水洗浄後は十分に乾燥させてください。また、保護モルタル仕様の場合、押さえコンクリート内に残留水分があるため冬期の施工では特に注意してください。
- 施工面は金コテ押さえとし、施工前は研磨紙付きポリッシャーなどでレタンス等を除去してください。
- 平場のコンクリートは平滑で、浮き、レタンスなどの脆弱部および突起物などの欠陥が無い良好な下地であることを確認してください。
- ジャンカ・目違い・段差・巣穴はNTスプレーの仕上りに影響するため凹凸や段差を無くしてください。NTスプレーは、下地の表面状態を反映しますので、出来る限り平滑にしてください。
- 立上りは、凹凸の少ない平滑面とし、凹凸や不具合も平場と同様の処置を施してください。また、立上り端部および軒先部の水切りを良くし、雨仕舞いの納まりを確認してください。
- ポリマーセメントモルタルを使用する場合は、プライマーの塗布やウレタン塗膜の硬化収縮による破壊・剥離に耐え得るよう、高い付着強度と耐溶剤性を有する材料(NTカチオンシリーズなど)を使用してください。
- NTカチオンフィラーやNTエポキシフィラーなどの施工時にコンクリートやモルタルで吸い込みが激しい場合は、NT吸水調整剤もしくは水打ちを行い、吸水調整を行ってから施工してください。
- フィラー関係のコテ施工では、コテ圧をかけて下地に擦り込むように塗り付けてください。ローラーの場合は、ムラなく施工してください。仕上り材の種類によっては金コテ押さえなどを行ってください。
- 下地は清掃を入念に行ない、プライマーやボンドの接着の妨げとなる塵埃、油脂、汚れ、サビなどが無いことを確認してください。
- 防水を施工する下地は、水が溜まることなく速やかに排水されることを確認してください。また、できるだけ速やかに排水される処置を施してください。防水材施工による勾配調整はできません。勾配不良は現場監督と協議してください。部分的な水はけ不良がある場合は、防水材施工前にポリマーセメントで補修してくださ

- い。施工後に水たまりができると、塗膜の白化、艶引け、損傷、剥離などの不具合が発生する場合があります。
- 水勾配は1/100以上とします(望ましくは1/50~1/20)。
- 既存塗膜および下地に藻類・かびの発生がある場合には、完全に除去してください。付着力の低下につながります。藻類・かびの除去に薬剤を使用した場合は、完全に洗い流してください。塗膜の付着力や変色など耐久性に影響します。
- 被塗面の洗浄やエフロレッセンスの除去に酸性洗浄剤・アルカリ性洗浄剤などの薬剤を用いた場合、薬剤洗浄後の水洗は、高圧水洗機もしくはブラシなどを用いて入念に行ってください。薬剤が被塗面に残したまま施工すると防水塗膜の縮み、白化、剥離を引き起こす恐れがあります。
- 高圧水洗浄や防水材の施工では、周辺の状態をよく確認し、飛散防止のため充分に養生を行ってください。
- 高圧水洗浄を行う際は、漏水が無いことを確認してください。漏水がある場合や予測される場合は下地調整前に確認し、適切な対策を行ってください。
- 高圧水洗浄(10~15MPa)や電動工具のケレンなどで、脆弱な下地や汚れ、既存塗膜の劣化部などを取り除いてください。
- 高圧水洗浄ができない場合はホースで水を流しながらブラシなどを使用し、塵や埃、かび、藻類などを完全に除去してください。
- 出入隅の形状は、入隅は通り良く直角に、出隅は通り良くR面や45°面で5mm程度以上(推奨値15~30mm程度)の面取りで仕上げてください。
- 立上り端部や軒先部の納まりは水切りが良好であることを確認してください。
- 防水層に支障のあるひび割れ・打ち継ぎに適切な処理を行ってください。
- 下地の1.0mm未満の小さいひび割れは、ポリウレタン系シーリング材やブルーフロン防水材(手塗り立上り用)を擦りこんでください。ただし、通気緩衝シート仕様を採用する場合は除きます。
- 1.0mm以上のひび割れはUカットしてポリウレタン系シーリング材もしくはブルーフロン防水材(手塗り立上り用)を充填し、ブルーフロン防水材(手塗り)と各種補強布(ガラスクロスCAG45、ガラスクロスCAG60、ブルーフロン補強テープVSなど)を用いて補強塗りなどを行ってください。
- 誘発目地・化粧目地には予めポリウレタン系シーリング材を充填しておき、ブルーフロン防水材(手塗り)と補強布の増し張りを施してください。ただし、通気緩衝シート仕様を採用する場合はこの限りではありません。
- 伸縮目地の旧目地材は撤去して、適切な処理を行ってください。
- 化粧目地に大きな段差や凹凸がある場合はサンダーで

- 削るか、NTカチオンシリーズなどのポリマーセメントモルタルで埋めてください。
- 化粧目地には、ポリウレタン系シーリング材やNTカチオンシリーズなどのポリマーセメントモルタルを充填し平滑にしてください。
- 下地の動きにより防水層にひび割れが入る場合がありますので、事前に構造などについて施工依頼者様と打ち合わせて仕様決定をしてください。
- 防水材を施工する金属部分は、汚れ・油脂類・サビなどを除去し、脱脂処理した後、各種金属用プライマー(エポラオールプライマー、エポラ#3プライマー、NT金属用プライマーECOなど)を施工してください。
- 金属部分とモルタル部との取り合い部分は、Uカットをしてハツリ、ポリウレタン系シーリング材を充填してください。ウレタンゴム系塗膜防水材が掛かる部分は目粗し研磨(サンダーペーパー#100程度またはサンダー掛け)を行い、脱脂後、各種金属プライマーを施工してください。
- 固定の金属などは、固定不良が無いことを確認し、挙動が大きいと思われる箇所については、絶縁処理もしくは補強布による増し張りを施してください。
- 金物関連の取り合いで適切な雨仕舞いができることが必要です。適切な処理を行ってください。
- 金属製貫通パイプの場合は、100mm位までサビなどを除去し、各種金属用プライマー(エポラオールプライマー、エポラ#3プライマー、NT金属用プライマーECOなど)を使用してください。樹脂パイプの場合は、目粗しを行い専用プライマーを使用してください。
- 配管及び配線が防水施工に支障が無いことを確認してください
- 設備配管・スリーブ・取付金具などは、所定の位置に堅固に固定されていることを確認してください。
- ドレンやその周りの泥土やゴミ、藻類、植物などは、防水施工時に完全に除去してください。
- ドレン部は、増し塗りしても排水できるように低めに勾配をつけてください。また、ドレン廻りの勾配が悪い場合は速やかに排水されるよう処置を行ってください。
- 改修用ドレンはウレタン塗膜防水用を使用し、塗りかけ幅を100mm以上確保してください。
- 設備関連のコンクリートの基礎は原則「躯体一体型」とし、防水層の上に乗せることは極力避けてください。
- コンクリート架台の下部に隙間がある場合はシーリングの充填を行ってください。
- 劣化しているシーリング材は撤去し、打替えを行ってください。
- 防水層に影響しないように、シーリング材の種別選択は適切に行ってください。
- 防水層端末・金物の取り合いなど、必要に応じて適切にシーリングが施工されていることを確認してください。

■施工環境に関する事項

- 施工当日から施工後翌日までに降雨、降雪、降霜など天候不良が予想される場合での施工は避けてください。未乾燥状態で降雨や夜露などにあたるとう艶引けや白化、フクシ、付着不良などの原因につながります。
- 気温が5℃以下または40℃以上、湿度85%以上の環境での施工は避けてください。NTスプレー以外の材料は、特に冬季は乾燥に時間がかかりますので乾燥までの時間を考慮して作業を終了してください。気温が5℃以上でも、気温が低い場合は塗膜の乾燥に時間がか

- かり、施工間隔が変わりますので充分注意してください。結露などの水分の影響を受けやすくなるため、施工後の温湿度管理にも注意を払ってください。
- 山間部、あるいは夜露の早く降りる地域では、早めに施工を終了し、十分に乾燥時間を確保してください。光沢低下、膨れ、割れ、はがれの原因になります。
- 水性プライマーやボンド、トップコートは、施工後、塗膜が乾燥硬化するまでに0℃以下になった場合、造膜不良や塗膜のフシ、付着不良が発生する場合があります。

- す。施工後に気温が0℃程度以下に低下すると予測される場合は、早めに施工を終了し、十分に乾燥時間を確保してください。
- 高温時には下地が高温になり、硬化乾燥が速くなるため、レベリング不良やワキ、泡抜け跡の発生など仕上に異常が発生することがあります。
- 高湿度下では施工をしないでください。水分の影響で艶引けや白化が発生します。

注意事項 (各工法のページの注意事項もご参照ください)

■塗料・ウレタンゴム系塗膜防水材・NTスプレータイプS10などの調合に関する事項

- 塗料やウレタンゴム系塗膜防水材、補助剤(硬化促進剤など)、希釈剤などは、本カタログや「ブルーフロンシリーズ総合カタログ」をご参照、ご確認いただき適切な材料を選択してご使用ください。
- 材料の調合、施工間隔、可成時間、使用量など標準施工仕様は守って施工してください。なお、可成時間や施工間隔は、気温や材料温度に起因し変わります。夏場は特に短くなりますのでご注意ください(20~21ページをご参照ください)。
- ウレタンゴム系塗膜防水材は、施工時の気温を確認し、施工可能な温度領域にあった塗料や硬化剤を選択し、適切な施工環境を確保してください。低温の場合、硬化反応が進まず塗膜硬度発現の低下など塗膜物性の低下や外観不良が発生します。高温の場合は、可成時間が短くなり硬化が速くなるため、レベリング不良や泡抜け痕の発生など仕上り異常が発生する場合があります。
- NTスプレータイプS10や材料は必ず、指定材料を使用し秤を用いて規定配合比で調合のうえ、充分にかくはん後施工してください。他の塗料や水、アルコールとの混合は絶対に行わないでください。
- ウレタンゴム系塗膜防水材は無溶剤形塗料です。作業の目的に調整より希釈する場合は、環境配慮仕様の場合はブルーフロンエコシンナーにて行い、重量比5%を上限としてください。環境配慮仕様でない場合は、ブルーフロンシンナーでの希釈も可能ですが、希釈量は同様に最大5%を上限としてください。
- NTスプレータイプS10は希釈せずに使用してください。
- 塗料やウレタンゴム系塗膜防水材の過剰希釈は硬化不良や硬度低下、仕上り不良などが発生しやすく、正常な塗膜物性が得られず耐久性に影響します。規定内の希釈量で施工してください。
- 塗料やウレタンゴム系塗膜防水材、硬化促進剤を調合する際は、あらかじめ各材料均一になるようにかくはんしてから、秤を用いて計量、塗料の調合を行ってください。小分けして使用する際も同様に行ってください。相分離や顔料の沈降が見られる場合があります。
- NTスプレータイプS10硬化剤にスプレー用トナーを調合する際は、あらかじめ各材料均一になるようにかくはんしてから塗料の調合を行い、その後、全体が均一になるようにかくはんしてください。
- 塗料やウレタンゴム系塗膜防水材の種類に合わせて、適切なかくはん機を選定してください。ウレタンゴム系塗膜防水材のかくはんは出力の大きいかくはん機を低速にして泡を巻き込まないようにかくはんしてください。回転数が速かったり、かくはん時間が長かったりすると泡を巻き込み、泡跡やピンホールの発生など仕上りが悪くなる場合があります。羽の形状によって泡の発生につながるります。
- 塗料やウレタンゴム系塗膜防水材の主剤と硬化剤、A液とB液、硬化促進剤など複数の材料を混合かくはんする際、容器の隅や底、側面にある材料が混合されていない場合があります。混合が不完全なまま材料をかき出して使用した場合、硬化不良や硬化速度の差が発生します。硬化促進剤の混合不良は、2層目の防水材やトップコートの施工でフクレやチヂレが発生する可能性があります。混合かくはんは注意して行ってください。
- 塗料やウレタンゴム系塗膜防水材は硬化促進剤を添加することにより、可成時間が短くなります。添加後はすみやかにご使用ください。
- トップコートに骨材などをに入れて調合する場合は、A液とB液を先に調合、かくはんした後、骨材を加えて混合かくはんしてください。
- 計量・混合かくはんする作業場所は、養生シートを敷き、材料がこぼれたら直ちに除去してください。缶の底に未混合の材料が付着し、施工面に付着した場合、その部分が硬化不良となります。
- 2液ウレタンゴム系塗膜防水材は、混合した後は直ちに施工面に塗面積に対して適切な量を流し、塗り広げてください。缶中にて放置していると発熱反応により缶中の温度が上昇し可成時間が短くなります。
- 材料を混合した缶などは使いまわしをしないでください。混合の都度、新品を用いるか、洗浄を行った後に使用してください。
- 塗料を調合し時間が経過した反応硬化が進んだ塗料と新たに調合した塗料を混合しないでください。可成時間が短くなったり、ゲルブツが生じ施工不良を生じることがあります。

■仕様・施工・工法に関する事項

- 調合、施工間隔、可成時間、使用量など塗装仕様を守って施工してください。なお、可成時間や施工間隔は、気温や材料温度に起因し変わります。夏場は特に短くなりますのでご注意ください。
- 規定標準施工仕様の使用量が施工されていないと、塗膜性能が発揮されない場合があります。決められた使用量を必ず守ってください。
- 各工法の使用量は表記以外にも変更可能です。
- 一度調合した塗料やウレタンゴム系塗膜防水材は必ず可成時間内にご使用ください。可成時間を過ぎた塗料は使用しないでください。作業性、付着力の低下や仕上りなどが悪くなります。
- 各工程において塗膜の硬化乾燥が不十分の状態では次工程の施工をすると再溶解やリフティング(塗膜のチヂレ)が発生する場合があります。硬化乾燥していることを確認してから次工程へ進めてください。
- プライマー施工後、次工程までの施工間隔を過ぎた場合、付着不良の原因となります。特に夏場は施工間隔が短くなります。施工間隔を過ぎた場合、プライマー表面を十分に研磨し、シンナー拭き後、プライマーを施工してください。
- プライマーの施工後に水分に曝された場合、プライマー表面を艶が無くなるまで研磨、清掃後、再度、プライマーを施工してください。
- ウレタンゴム系塗膜防水材の施工後に水分に曝された場合、施工する表面をよく清掃し、シンナー拭き後に次の工程を行ってください。
- ウレタンゴム系塗膜防水材の2回目の施工までの施工間隔があいた場合は、施工する表面をよく清掃し、シンナー拭き後に次の工程を行ってください。その場合は、「NTエコプライマーU」を「ブルーフロンエコシンナー」にて倍希釈したもの、もしくは、「ブルーフロン塗り替え用プライマー」の塗布を行ってから次工程へ進めてください。
- NTスプレータイプS10の下層にウレタンゴム系塗膜防水を施工する際、下地に勾配がある場合、施工した塗料が流れたり、硬化途中で塗膜のスレやシワが発生したりする場合があります。勾配がある面に施工する場合は、ダレ止め剤(ミルコンなど)を使用して流れないように粘度調整を行ってください。また、同一品の平場用と立上り用を混合して粘度調整することも可能です。
- 塗料やウレタンゴム系塗膜防水材は一度に規定以上に厚塗りせず、たまりができないように均一に施工してください。厚塗りやたまりができると硬化乾燥が遅くなるため、塗膜のフクレやフシ、剥離の原因になります。
- トップコートの施工後に水分に曝された場合、シンナー拭き後、再度、トップコートを施工してください。
- 「ブルーフロンエコ水性GRトップ」「ブルーフロンエコ水性GRトップ遮熱」は、可成時間が短いので、時間内に使用できる量を調合し、可成時間は厳守してください。可成時間を過ぎた場合、付着不良や艶ムラ・色ムラなどの不具合の原因となります。
- ウレタンゴム系塗膜防水材を施工からトップコートまで施工間隔があいた場合やウレタンゴム系塗膜防水材の施工後に水分に曝された場合、シンナー拭きをし、トップコートを施工するか、「ブルーフロン塗り替え用プライマー」を施工し、トップコートを2回施工してください。仕様は試験施工を行ってから決定してください。
- トップコート施工時、ローラーと刷毛など施工方法が混在する場合、使用量、表面肌が異なることで若干色相や仕上に差が出る場合があります。特に補修塗りを行う際は注意し、仕上りを確認した上で希釈量などを決め最小範囲でおさめ、目立ちにくくなるよう施工してください。
- トップコート施工時、ローラー施工の場合、ローラー目は同一方向に揃えるように行ってください。ローラー目の方向により色や仕上りが異なって見える場合があります。
- ローラー施工する場合、ローラーの種類によってはローラーの毛が取れて塗膜に混入することがあります。ローラーの選定には充分ご注意ください。
- 外断熱工法の施工や既設防水層に断熱板が設置されている場合、施工現場が湖沼や河川の近くである場合、また夜間の気温が下がる時期は結露が生じやすくなります。とくにトップコートの「艶引け(乾燥硬化前に水分の影響による現象)」を避けるため、午後からの施工作業には充分注意してください。
- ND工法やNKD工法の断熱工法を施工する場合、夜間の気温が下がる時期は結露が生じる可能性があります。特にトップコート施工は早めに行い、夜間までの養生時間を長くしてください。
- 既設防水が外断熱工法の場合は熱による影響を受け通常より劣化が助長されるため、遮熱タイプのトップコートを選定してください。
- 艶ありの防滑仕上げにおいて、防滑骨材の量や骨材の頭出しと使用量により部分的に仕上り差を感じる場合があります。ご注意ください。
- 艶を調整したトップコートは、下地の状態や希釈量、施工間隔、膜厚、塗り重ねによりムラが生じることがあります。実際に希望している艶と異なる場合がありますので、必ず艶を確認して、施工条件をなるべく同一条件にして施工してください。
- トップコートは色相によっては2回塗りでは隠べいしない場合があります。その場合は、一度に多くの使用量で施工せず、施工回数を増やしてください。
- 粗面仕上げにする場合はトップコートに「エストッブ#20」「エストッブ#40」「NTマイクロ骨材」のいずれかを添加してください。ただしいずれも防滑性能を保証するものではなく、降雨後などで水が防水層表面にある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 粗面仕上げのトップコートは表面に微細な凹凸ができるためホコリが滞留しやすくなります。
- 養生テープは、工程ごとに養生テープを貼り替えてください。また、養生テープは塗膜が硬化する前に除去してください。塗膜が硬化した後では、養生テープの除去が困難になります。
- NTスプレータイプS10は他のスプレータイプとは直接に付着しませんので、他のスプレータイプとの併用は避けてください。
- ホースの全長に見合った場所にスプレーマシンと材料を確保し、飛散対策の養生を充分に行い施工してください。
- NTスプレーの施工前には、スプレーマシン内(シリンダーポンプおよびホース)に残っている材料や古い材料の入替えを必ず行ってください。
- NTスプレータイプS10の施工前には必ず主剤および硬化剤を設定温度まで加温して適正な粘度と吐出量(吐出圧:吹付け施工中はA液とB液の吹付け圧力差が1MPa以内であることを確認してください)に調整してください。

- NTスプレータイプS10の施工前には、試し吹きを行い適切にスプレーマシンが稼働することを確認してください。
- NTスプレータイプS10の施工はスプレーマシンが正常に稼働し、正常な圧力・吐出量・温度などであることを確認しながら行ってください。
- NTスプレータイプS10施工後は、48時間以内にトップコートを施工してください。ただし、床防水用途として歩行や使用頻度が高く、塗膜に負荷がかかりやすい場所においては、当日のうちにトップコートを施工してください。
- NTスプレーを2回に分けて施工する際の施工間隔が48時間以上となった場合は、ブルーフロンプライマーUをウレタンシンナーで希釈したもの、またはブルー

- フロン塗り替えプライマーを層間に施工してください。
- NTスプレーは「エンボス仕上げ」となります。
- 下地の不陸の影響により、仕上りが平滑にならない場合があります。
- 超速硬化するNTスプレータイプS10は、硬化が速くレベリング時間が少ないため下地凹凸やシートジョイント、テープなどの形状が出やすい傾向にあります。
- 入隅や出隅などの各部位の処理、通気緩衝シートの張り方や脱気筒の取り付けにつきましては④～⑦ページをご参照ください。
- 必要に応じ、脱気装置の設置を行ってください。
- 歩行頻度が高い場合などは、保護塗料の摩耗が発生いたします。定期的な点検と保護塗料の塗り替えを行い、防水層を長持ちさせることをおすすめいたします。

- 特定化学物質障害予防規則の対象となる塗料は、同規則に従い作業主任者を選任するなどの法令遵守をお願いいたします。
- 本製品の取扱いの際は用途・用法を守り、本カタログや、「ブルーフロンシリーズ総合カタログ」「ブルーフロンエコHG」、各個別カタログなど、施工仕様書、SDSをよくお読みになり正しくご使用ください。
- 記載が無い事項については、公共建築工事標準仕様書および同監理指針、公共建築工事改修工事標準仕様書および同監理指針やJASS8、ウレタン塗膜防水ハンドブック(日本ウレタン建材工業会)なども併せてご参照ください。

■機械固定工法関係(NK工法・NKD・ND工法)

- ⑨～⑩ページの注意事項もお読みください。
- ブルーフロンNT-FタックシートSの重ね部は赤いラインが上となります。
- 隣り合うシートは短手のジョイントの位置を揃えないようにしてください。
- 下地や既存防水層の厚み、断熱材、シートの厚み等により、使用するアンカーの長さを選定してください。
- 下地の状態やALC下地の場合など、現地で測定したメカニカルアンカーの引き抜き強度が充分でない場合は別途、最寄りの営業所へお問い合わせください。
- アンカーの穿孔は、適切な径や深さに垂直になるよ

- うに行い、その時に発生する切粉は掃除機などで除去してください。
- PK工法はメカニカルアンカーを用いた特殊な工法となります。防水層が薄い場合、メカニカルアンカーの跡が目立ちやすいため、防水層の膜厚は3mm厚以上を必ず確保してください。
- アンカーの固定強度だけでは不十分な箇所は、必要に応じてボンドを併用してシートを固定してください。
- ND工法やNKD工法ではステンレス脱気筒は、専用コア(別売り)が必要となる場合があります(詳細は最寄りの営業所へお問い合わせください)。

- NKD工法やND工法にはトップコートは遮熱タイプをご使用ください。
- トップコートの色相に淡彩色(ライトグレー、ライトグリーン、ライトブルー、ホワイト)を選定した場合、隠ぺい性確保のため2回塗りとなる場合があります。
- 断熱工法を施工する場合、夜間の気温が下がる時は結露が生じる可能性があります。特にトップコート塗装は早めに行い、夜間までの養生時間を長くとってください。

■改修工法

- 改修工事の場合、既存塗膜の種類や劣化状態を確認し、健全な状態でしっかりと付着していることを確認し、適切な工法を選択してください。NTスプレーによる塗り重ね改修工法ができない場合があります。
- 既存ウレタンゴム系塗膜防水材の改修時は、トップコートの種類によっては溶剤などの影響により既存塗膜

- を侵しリフティング(塗膜のチヂレ)やフクレが発生する場合があります。また、付着やフクレの状況によっては、既存塗膜の上に施工できない場合があります(既存塗膜を剥離する必要がある場合があります)。既存塗膜を必ず確認のうえ施工仕様を決定してください。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。

- 既存防水層の破断、ハガレ、浮き部分およびフクレ部分は切開しポリマーセメントモルタルなどで平滑に補修してください。ポリマーセメントは高い付着強度と耐溶剤性を有する材料(NTカチオンシリーズなど)を使用してください。

■遮熱工法について

- 遮熱トップコートの希釈量や材料の使用量が多すぎたり、少なすぎたりしても、色相が変化して見えることがあります。特に上塗りの使用量が不足していた場合、色相が変化して見えます。また、遮熱性能や耐候性が低下することもありますので、仕様を厳守して施工してください。
- 遮熱塗料性能は、明度と色相により変わります。既存塗膜の色が塗り替え予定の色より薄い場合、遮熱効果が得られない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 建物の形状、構造、基材(素材)や既存塗膜の明度と色

- 相によっては充分な遮熱効果が得られず室内温度低減効果が期待できない場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 一般防水トップコートと各種ブルーフロン遮熱トップコートの日射反射率の差は、濃い色の同色であると大きくなる傾向があります。色相により、一部例外があるため、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 遮熱効果は、塗膜上に汚れが堆積すると遮熱性能が低下します。他にも立地環境や建物の屋根材の種類、屋根勾配、構造などが起因する場合があります。詳しくは、最寄りの営業所にお問い合わせください。

- 遮熱塗料の全面施工と部分施工では遮熱効果が異なります。部分施工では未塗装部分が影響し遮熱効果が得られない可能性がありますので、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 無塗装ガルバリウム鋼板は、素材自体が優れた熱反射性を持っています。無塗装ガルバリウム鋼板へのご使用については、最寄りの営業所にお問い合わせください。
- 遮熱塗料では、特殊顔料を使用していますので、経年劣化による褪色の傾向が一般塗料と異なる場合があります。

「ブルーフロン防水工法」をご採用いただいたお施主様へ (取り扱いとメンテナンスのお願い)

- 防水層は可燃物ですので、火気は絶対に使用しないでください。また、煙草の吸殻の投げ捨てや花火なども厳禁です。
- 防水層の上に灯油や溶剤、不凍液などをこぼした際は直ちに除去してください。防水層が軟化し、フクレや剥離が生じます。
- 防水層の上に人工芝を施工することはお勧めいたしません。ご使用になる場合は「置き式」の方法をとってください。
- 防水層の上で重い箱などを引きずったり、角の鉄材などの損傷を与える物を落としたりしないでください。防水層の剥離や損傷を受けます。
- 防水層の上では、防水層を損傷する恐れのある履物(ハイヒールやスパイクシューズなど)での歩行はしないでください。
- 防水層の上に椅子やテーブルなどを置く場合、脚をゴムキャップなどで保護してください。また、長期間にわたり重量物を設置する場合は養生ゴム板(3mm程度)や角を丸くしたベニア板などを下に敷いてください。同様に高熱を発する器具や物などを直接設置しないでください。ま

- た、カッターなどの鋭利なもので傷をつけないでください。
- 防水層の上でゴルフの練習や一輪車、ローラースケートなどの練習は止めてください。クラブや車輪で防水層を傷つける恐れがあります。
- 防水層の一般的な汚れの清掃の際は中性洗剤(クレンザーは不可)を使用の上、モップなどで行ってください。また、清掃の際には水で濡れていますので、スリップなどによる転倒事故に充分注意してください。
- 防水層の上に醤油や酢などをこぼした場合は床面に染みつきやすいので、直ちに拭き取って水洗いを行ってください。
- 防水層の上にマジックインキなどの油性筆記具で書かないでください(防水層面に染みつきやすく取れません)。また、防水層の上では塗料や強いアルカリ性や酸性の薬剤、洗剤は使用しないでください。
- 防水層の上で動物を飼育しないでください。
- クーリングタワーの防藻剤や殺菌剤などの種類によっては、防水層に損傷を与えますので注意

- してください。
- 防滑工法は防滑を保証するものではありません。塗膜表面に水たまりがある場合には滑ることがありますのでご注意ください。
- 防滑工法では転倒時に擦り傷など思わぬケガをする場合があります。ご使用の際は十分に気を付けてください。
- **メンテナンスのお願い**
- 防水層に苔・草などを生やさないようにしてください。
- 側溝、ドレン周辺に土砂などが蓄積しないよう、定期的に取り除いてください。
- 防水層の端末・排水ドレン周辺は、定期的に点検を実施し、異常があった場合はご相談ください。
- 防水層の仕上げ塗料は、定期的な塗り替えをおすすめします。
- 防水層の点検・補修・仕上げ塗料の再施工を行う場合は、専門業者へ依頼してください(有償)。

「ブルーフロンシリーズ」をご使用いただく業者様へ

■製品の取り扱い注意事項

- 本来の用途以外に使用しないでください。
- 火気のある所では、絶対に使用しないでください。
- 火花を発生しない工具を使用してください。
- 万一、火災が発生した場合はABC粉末消火器など適切な手段を用いてください。水は使用しないでください。
- 施工中、乾燥中ともに換気を充分に行い、ミストや蒸気、ガスを吸い込まないようにしてください。
- 安全衛生上の観点から、取り扱い中は皮膚に触れないようにし、有機溶剤の蒸気を吸わないよう適切な保護手袋、有機ガス用防毒マスク、防じんマスク、保護眼鏡、保護面、保護衣などの防護具を着用してください。
- 取り扱い後は、洗顔、手洗い、うがいを充分に行ってください。
- 材料が手についた場合は、多量の水と石鹸で洗ってください。
- 材料が皮膚に付着し、痛みや外観変化があるときは医師の診察を受けてください。
- 蒸気やガス、粉じんを吸い込んで気分が悪くなった場合は、空気の清浄な場所で安静にし、必要に応じて医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合は、多量の水で注意深く洗ってください。また、コンタクトレンズを着用している状態で外せる場合は外してください。そして、できるだけ早く医師の診察を受けてください。
- 取り扱い中、容器からこぼれないように注意してください。こぼれた場合は直ちに布やウエスで拭き取るか、砂などを散布した後、適切な処理をしてください。
- 材料の付着した布やウエスなどは自然発火や引火の危険性があるため、廃棄するまで水につけ

- ておいてください。
- 容器(取っ手を含む)はつり上げないでください。止むを得ずつり上げるときには、適切なつり具で垂直に持ち上げ、落下に充分注意してください。偏荷重になると取っ手が外れ、落下する危険性があります。
- 本製品の保管は必ずフタをし、雨露や直射日光の当たらない、換気の良い場所で保管してください。夏季に車内での保管や高温になる場所での保管は危険ですので避けてください。
- 保管は5℃～40℃の屋内で貯蔵してください。40℃を超える温度に曝露しないでください。
- 各種通気緩衝材は直射日光を避け、雨や雪などにより水に濡れない涼しい場所に立てて保管してください。ブルーフロンNT-Fシート#2は雨水を吸水します。また、ブルーフロンNT-FタックシートSやNTタックシートAは、横倒しにして保管すると跡がついたり通気層がつぶれたりする場合があります。
- プライマーやトップコート、各種フィラーの硬化剤など水系塗料は5℃以下で保管すると凍結する恐れがあります。一度凍結した塗料は、仕上り不良、物性低下、割れなどの不具合の原因となります。
- NTカチオンエースやNTカチオンタイトF主材、NTカチオンフィラー主材、NTエポキシ速乾フィラーパウダー、PSパウダーは水硬化性です。保管には十分に注意し、地面に長い間放置したり、雨に当てたりすることは避けてください。また、長期にわたる在庫も避けてください。一度開封した粉体は充分に密閉し、湿気の影響を受けないように保管してください。
- ウレタン樹脂系のプライマーやトップコートの

- B液、NTスプレーの主剤(B液)、ウレタンゴム系塗膜防水材の主剤、ブルーフロンエコONE II、ブルーフロンエコONE NS IIは水分と反応し固まります。保管中や休憩中は必ずフタをしてください。
- 材料の保管は、施錠して子供の手の届かないところに保管してください。
- 中身を使いきってから廃棄してください。また、洗浄液・廃液・汚泥などは関係法令に基づき、自社で適切に処理するか、産業廃棄物処理業者に委託して処理してください。
- 施工や塗料容器を廃棄するときは、産業廃棄物として処理してください。
- 標準色以外をご指定された場合、褪色が速い場合や塗膜性能が低下する可能性があります。
- 環境配慮製品は、環境に配慮した材料を用いていますが、ご使用していただいたすべての人の健康状態を保証するものではありません。
- 本製品は揮発性の化学物質(有機溶剤など)を含有し臭気が発生します。あらかじめ元請や施工、近隣住民への説明を行い、了解を得てください。臭気が周辺にある物に付着する場合があります。付着が予想されるものは、施工箇所からできるだけ遠ざけ、屋内に揮発成分が流入しないように養生を行ってください。また、化学物質過敏症やアレルギー体質の方がいる場合には本製品との接触や施工を避けてください。
- 本製品は危険物です。本製品の取り扱い並びに輸送及び保管については、労働安全衛生法や消防法、道路運送車両法、船舶安全法、港則法などの各種法令を遵守してください。
- 製品をご使用の際は、必ず、警告ラベル、安全データシート(SDS)をご参照ください。

*製品改良のため、仕様などを予告なしに変更することもあります。ご了承ください。
その他、ご不明な点がございましたら、最寄りの営業所へお問い合わせください。

日本特殊塗料株式会社

■お問い合わせ先

東京営業所	〒114-8584 東京都北区王子3-23-2	☎(03)3913-6203 FAX(03)3913-6323
神奈川営業所	〒254-8503 神奈川県平塚市長瀬1-10	☎(0463)23-2135 FAX(0463)23-3739
中部営業所	〒472-0006 愛知県知立市山町東並木12	☎(0566)81-8111 FAX(0566)81-8124
大阪営業所	〒565-0853 大阪府吹田市春日1-4-12	☎(06)6386-8492 FAX(06)6338-3560
中四国営業所	〒739-0025 広島県東広島市西条中央4-3-13	☎(082)423-8231 FAX(082)423-8256
九州営業所	〒849-0112 佐賀県三養基郡みやき町江口4726	☎(0942)89-5766 FAX(0942)89-5762

● 日本特殊塗料ホームページ <https://www.nttoroyco.jp/>